

(公社) 栃木県サッカー協会事務局

〒320-0834 宇都宮市陽南2-12-19
TEL 028-684-6900 / FAX 028-684-3330
URL <http://www.tfa.or.jp/>



contents

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 栃木県フットボールカンファレンス2013 (表紙写真) 2 栃木県F Aのアクションプランについて 3 栃木県サッカー協会取り組み/2013年度のT F A活動目標 4 2012シーズンを振り返って・栃木S C、栃木ウーヴァF C 5 2012年関東リーグを振り返って・2012年シーズンを振り返って 6 1.高校連盟より/2.大会結果 7 3.本県ほかや遠征隊に参加して/4.全国高校サッカー選手権大会に参加して 8 栃木S C U-20 2012年度活動報告/H24年度参加した各種大会を振り返って 9 高円宮杯を振り返って 10 第43回関東中学校サッカー大会/第4種委員会・第41回栃木県少年サッカー大会 11 第22回バーモントカップ全日本少年フットサル大会栃木県大会 12 第23回関東選抜少年サッカー大会/第30回栃木県少年サッカー新人大会/第11回栃木県少年サッカー市町村選抜大会 | <ol style="list-style-type: none"> 22 <重要なお知らせ>/ねんりんピック宮城・仙台2012 23 ねんりんピック宮城・仙台2012 24 第13回全国シニア関東予選大会 (Over60) /第6回関東シニアサッカー選手権大会 (50歳以上) 25 第6回関東シニアサッカー選手権大会 (O-40) 26 北郡県キッズフェスティバル/キッズ年代の子どものために 27 キッズ年代の子ども達に良い環境を提供するために 28 子供達のために 29 フットサルリーグ10周年に思う/4チームが10年連続参戦 30 モランゴ栃木、関東昇格/本県出身選手、世界で活躍/手塚氏が浦和レッズに監督就任/井上選手、ベガルタ仙台へ 31 『もうひとつのロンドンオリンピック』 32 栃木県フットボールカンファレンス2013開催 33 中央レシエンU-12 34 平成24年度賛助会員ご芳名/賛助会員募集のお願い |
|---|---|



平成25年度 アクションプラン

- ・ 公益社団法人栃木県サッカー協会の取り組み
- ・ 2013年度のT F A活動目標

※写真 平成25年2月2日 栃木県フットボールカンファレンス2013

（公社）栃木県サッカー協会のさらなる発展を目指して！ 栃木県FAのアクションプランについて



公益社団法人 栃木県サッカー協会 会長 石崎 忠利

皆さん、こんにちは。昨年は本協会の運営につきまして、ご理解、ご協力を頂きまして誠にありがとうございます。今年も宜しくお願いを致します。

さて、本協会は 昨年4月に公益法人に認定され、県協会の発展に向け新たな第一歩を踏み出しました。組織をより充実させ、様々な要望・ニーズに応えられ、社会的な責任を果たせる協会にならなければなりません。そのようなことから、本協会では昨年、糸井専務理事を中心とした執行部が、各連盟・各専門委員会の責任者の方々とヒヤリングを行い、今年度の県協会としての活動目標、各連盟・各専門委員会の目標などのアクションプラン、

また10年後の達成目標（ゴールプラン2022）を作成しました。

このアクションプランは、2007年に策定された「県協会の理念」や「県協会のビジョン」を踏まえて作成されております。理念やビジョンを達成するためには、協会構成員すべての方々が、いろいろな考え方、取り組み方があるかと思いますが、ベクトルを同じくして皆んなで一緒になって努力する以外にありません。かけ声だけで終わらず、アクションプランを実効性のあるものにしていきたいと思っております。

また達成目標の欄に記載されておりますように、現在、本県の全国ランキングは17位です。このランキングは毎年、日本協会が都道府県チャートとして発表しているもので、普及、基盤、強化、運営の4項目から具体的な数値が算出されます。本協会は強化部門、運営部門が低い状況です。これは男女の日本代表選手の輩出が少なく、また国際試合など大きな大会が誘致できていないことによるものです。

このランキングを毎年一つずつあげて、2022年には何とか10位にしたいというのが県協会の目標です。そのためには、とくに指導環境の充実（コーチの資質の向上、育成部門の充実、JリーグやJFLクラブとの連携など）、またサッカー環境の整備（西洋芝、人工芝グラウンドの増設など）が重要です。良いサッカー環境につきましては、これから女子サッカーも益々盛んになってきますので、これらを踏まえて県・各市町や各界に要望し続けていきたいと思っております。

現在、日本の子どもたちは、サッカーが一番好きなスポーツです。また昨年の栃木県教育委員会の中高生運動部調査報告では、サッカーが中学校・高校とも第一位です。私達にとっては大変喜ばしいことですが、同時に責任もあります。これらの子どもたちが将来にわたり、サッカーを楽しめるよう、さらにサッカーファミリーの輪が広がるようするためにも、アクションプランについてのご理解、ご協力を宜しくお願い致します。

アクションプラン

公益社団法人

栃木県サッカー協会の理念

公益財団法人日本サッカー協会の理念に基づき、栃木県においてサッカーの普及発展、競技力の向上に努め、サッカーを通じて栃木県民の豊かなスポーツ文化の振興及び心身の健全な発達に寄与する。

公益社団法人

栃木県サッカー協会のビジョン

1. 栃木県のサッカーの普及に努め、スポーツに親しむ環境を構築し、県民に健康と幸せを与える。
2. 競技力の向上を図り、栃木県代表チーム・選手が日本及び世界で活躍することにより県民に夢と希望を与える。
3. フェアプレーの精神を広め、人々の友好を深め、安全で豊かな社会を構築することに貢献する。

公益社団法人栃木県サッカー協会取り組み (TFAミッションファイル)

《10年後の達成目標 (TFAゴールプラン2022)》

目標項目	達成目標	活動内容	現状数値
サッカーファミリーの拡大	サッカーを愛する仲間(サッカーファミリー)のうち、 <u>プレーヤー・審判員・指導者が4万人(県民の2%)</u> になる。	1. 第1種登録チームの選手登録数の拡大 2. U13～18年代の選手登録数の拡大 3. 女子の選手登録数の拡大 4. フットサル選手登録数の拡大	平成23年度 サッカー選手登録 17,697人 フットサル登録 1,927人 審判員 5,611人 指導者 1,770人 計 27,005人 県民人口 2,000,021人 県民の 1.35%
本県代表の活躍	本県代表チームが全国のトップチームとなり、本県出身選手が「 <u>日本代表</u> 」として5名以上、「 <u>Jリーガー</u> 」として20名以上活躍する。	1. 代表チーム強化 2. 選手の強化・育成 3. 指導者の育成	日本代表 0人 女子日本代表 2人 Jリーガー 10人
組織の確立	(公社)栃木県サッカー協会が全国及び県民より信頼の得られる組織として確立し、 <u>全国ランキングトップ10入り</u> する。	1. 組織内の連携強化 2. 組織基盤の確立 3. 実施事業の充実	全国ランキング 第17位
J1チームの創設・活用	<u>栃木SCがJ1に昇格し、本県選手と県民に夢と活気を与える。</u>	1. 連携・共存体制の確立 2. サポート体制の確立 3. 協同連携事業の実施	J2所属栃木SC
サッカー施設の充実	新たなスタジアムの完成と県内の人工芝サッカー場が15面に増加する。	1. 対象自治体への整備要望活動の展開	人工芝サッカー場 ・鹿沼市 1面 ・宇都宮市 1面 ・矢板市 1面 ・那須塩原市 1面 ・日光市 1面 ・佐野市 1面 計 6面

2013年度のTFA活動目標

- (1) アクションプランの遂行<各連盟・委員会のプランの遂行>
- (2) サッカーファミリーの拡大<プレーヤー・審判員・指導者登録数を県民の1.5%を目指す>
- (3) 各種別の本県代表チームの活躍<全国大会ベスト8以上、関東大会準優勝以上を目指す>
- (4) J2栃木SC、JFL栃木ウーヴァFCとの連携・協力体制の確立
- (5) 女子サッカー普及<なでしこリーグ戦の県内開催誘致>
- (6) サッカー施設の拡充<人工芝サッカー場の1面増設>
- (7) 県内各地区サッカー協会との連携・協力
- (8) 財政の健全化<事務局体制の強化・会計処理の一元化の推進>

1. 第1種委員会: 社会人連盟

平成25年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内リーグ編成の整備 ・ 各種大会の運営及び委員会への出席率の向上 ・ 各委員会の組織の見直し組織強化 ・ J2チーム指導者による登録チーム指導者及び選手に対する指導講習会の実施 ・ 県1部リーグから関東リーグへのチーム昇格
	<p><数値目標> 事業及び委員会への出席率をUP (40%→50% UP)</p>
	<p><スローガン> チーム社会人(1種)の取り組み</p>
平成25年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内リーグの活性化 ・ 各委員会(総委・審判・技術・競技・財務)の確立(適数人員) ・ J2・JFLチームとの連携による県内チームの強化
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内2部リーグのチーム編成の見直し及び3部決勝大会の開催方法の見直し ・ 各委員会メンバーの適正化 ・ J2・JFLとの連携・協力

2. 第2種委員会: 高校連盟

平成25年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校サッカーの活性化(男女) ・ 高校サッカー部員の増加(男女) ・ 本県代表校の活躍(男女) ・ 栃木県ユースサッカーリーグU-18の活性化
	<p><数値目標> 部員数 3,000人 全国大会入賞</p>
	<p><スローガン> 高校サッカーを盛り上げよう!</p>
平成25年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国高校サッカー選手権大会栃木大会 ・ 技術・審判の質の向上 ・ 男子部・女子部の連携強化 ・ 栃木県ユースサッカーリーグU-18の活性化 ・ プリンスリーグ関東への本県代表参入 ・ キッズ委員会との連携
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国高校サッカー選手権大会栃木大会 ・ 技術・審判の研修会(できるところから) ・ ユースリーグ参加チーム増加 ・ プリンスリーグ参入戦に向けての代表チームへの協力体制づくり ・ キッズ講習会の開催(キッズ委員会との連携) ・ 県総体決勝戦の男女共同開催

3. 第3種委員会: 中学連盟

平成25年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 競技環境の充実 ・ 指導者の質の向上
	<p><数値目標></p> <p>①U-15リーグに70%以上のチームの参加 ②B級コーチ1名以上、C級コーチ5名以上</p>

	<p><スローガン> より良い育成環境を目指して</p>
平成25年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・リーグ戦文化の醸成 ・指導者養成事業
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・U-15リーグ (1部リーグ・2部Aリーグ・2部Bリーグ・3部リーグ) ・B級およびC級指導者養成講習会

4. 第4種委員会:少年連盟

平成25年度の活動目標	<p>【地域】 8地区の少年連盟と県少年連盟との意思疎通のためのパイプ役としての業務を円滑に遂行する</p> <p>【技術】 関東レベルで通用する選手の育成 ～将来にわたって活躍できる選手の基礎づくり～</p> <p>【審判】 スタンドアートの確立</p> <p>【広報】 正確な情報を迅速に提供する</p> <p>【フットサル】 社会人から少年連盟（キッズ）まで、連携した普及活動の確立 フットサル研修会の開催方法を、県フットサル委員会と協力して検討 審判・ルール・指導・普及 等</p> <p>【キッズ】 県内8地区のキッズ委員会の立ち上げと人材確保 県・地区技術委員会の中でのキッズからの一貫指導体制の確立 各地区での指導者養成</p>
	<p><数値目標></p> <p>【地域】 各種申込書提出締め切り日の厳守</p> <p>【技術】 関東選抜大会ベスト4以上</p> <p>【審判】 25・26年度に少年連盟から2級を2人つくる</p> <p>【広報】 大会結果を21時までにアップ</p>
	<p><スローガン></p> <p>【技術】 プレーの質を追求しよう</p> <p>【審判】 基本に忠実に</p> <p>【広報】 正確・迅速</p>
平成25年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<p>【地域】 ①各地区大会の円滑な運営 ②地区トレセンと県トレセンとのパイプ役 ③各地区から出た意見の県少年連盟への吸い上げ</p> <p>【技術】 ①県トレセン活動の充実 ・実施回数、活動時間の見直し ・トレーニングの質の向上 ②指導者の質の向上 ・全国レベルのゲーム分析 ・本県の課題抽出 ・指導者講習会の設定と積極的参加</p> <p>【審判】 ①各地区ごとの審判研修・実技研修の充実 ②3級インストラクターの育成 ③県審判トレセンへの参加 ④県派遣審判への協力</p> <p>【広報】 大会運営者・企業との円滑な情報連携</p> <p>【フットサル】 少年サッカー連盟フットサル研修会の開催</p> <p>【キッズ】 県・地区技術委員会との連携</p>

目標達成に向けて取り組む事業 又は競技会名	<p>【地域】 ①地域リーグ戦の活性化 ②地区の優秀な選手を漏れなく県に推薦する ③地区の理事会の活性化</p> <p>【技術】 ①地区トレセン活動の活性化（伸びた選手は県トレセンへ推薦） ②全日本少年サッカー大会県大会での優秀選手選出 ③海外遠征を通しての強化（技術・メンタル） ④関東トレセンマッチデー（他県の選手のレベル・戦術分析） ⑤関東選抜大会へ向けての強化</p> <p>【審判】 ①審判研修（3級以上）の定期的開催 ②他連盟審判員との交流 ③技術と審判のすり合わせのための研修会開催 ④2級審判員育成のためのエリートプログラムの作成</p> <p>【キッズ】 ①地区開催フェスティバル ②地区開催アカデミー（U-9） ③地区主催キッズリーダー講習会</p>
--------------------------	---

5. 第5種委員会：女子連盟

平成25年度の活動目標	<p>①U-15年代の選手の活動の場所を確保し、チームの創設へと繋げる。（U-12年代からの継続）</p> <p><数値目標> U-15のチーム登録を2から4へ増やす。</p> <p><スローガン> U-12からU-15へのパイプを太くする。</p>
平成25年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 （*新規事業も含む）	<p>①4種の協力を得て、中学年代でもサッカーを続ける環境が有ることを多くの選手に知らせる。</p> <p>②地域協会との連携を図り、各地区でのU-12、U-15の活動の活性化に協力してもらう。</p>
目標達成に向けて取り組む事業 又は競技会名	<p>①U-15年代を対象としたクリニックの開催</p> <p>②トレセンの充実</p>

6. クラブユース連盟

平成25年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・関東リーグへの進出（各チーム内での強化） ・帯同審判の質の向上 <p><数値目標> U-13リーグに100%のチーム参加</p> <p><スローガン> 未来を担う選手たちと共に！ （高めあい・競い合い・認め合う）</p>
平成25年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 （*新規事業も含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・U-13リーグの長期リーグ化（6月～12月総当たり）
目標達成に向けて取り組む事業 又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・U-15・U-13リーグ ・帯同審判の講習会

7. シニア委員会:シニア連盟

平成25年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・シニアの組織強化・シニア連盟の設置 ・県内シニアリーグ及び大会の整備
	<p><数値目標></p> <p>Over40、50、60各カテゴリー各1チームの増</p>
	<p><スローガン></p> <p>シニアサッカーの組織の強化</p>
平成25年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア委員会の組織の強化 ・シニアリーグの活性(各年代40、50、60) ・2014ねんりんピック開催に向けての準備
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア委員会の地域のメンバー選出 ・シニアサッカー選手権大会(〇-40, 〇-50)9月~10月 ・シニアサッカーリーグ(〇-40, 〇-50)5月~2月

8. 技術強化委員会

平成25年度の活動目標	<p>別紙技術委員会ミッションの2年目にあたる。 引き続き技術委員会の3部門ごとに発展的に目標達成に向けて努力していくとともに、3部門が連携し合っ県技術の総合力を高めいていけるようにする。</p>
	<p><数値目標></p> <p>技術アクション1stステージ(2012-2017)</p> <p>①世界で通用する選手の輩出(5年以内に日本代表を輩出する)</p> <p>②県の代表チームが常に関東Aクラス又は全国ベスト8以上</p> <p>③サッカー人口2%計画(プレーヤーが約4万人へ:現在の2倍)</p>
	<p><スローガン></p> <p>栃木から世界へ</p>
平成25年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・トレセン改革(選手・指導者双方向の質の向上) ・U14韓国遠征・交流、大学選抜韓国遠征 ・国体チームのサポート(チームと各種別の連携強化) ・ゲーム環境の整備へのサポート(リーグ戦の推進) ・指導者養成及び研修会の強化 ・女子育成のサポート強化 ・キッズとの連携強化 ・地区の育成強化のサポート
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の内容と同じ。 ・トレセン活動のサポート(巡回指導等指導体制の強化) ・指導者講習会の充実 ・地区リーグ及びトレセン活動の推進、指導者講習会

9. フットサル委員会:フットサル連盟

<p>平成25年度の活動目標</p>	<p>数年前まで、フットサルにおける本県は「関東の後進県」の一つに挙げられていた。しかし男女の栃木県リーグが本格的に始まり、フットサル連盟も順調に動き出したことなどから、フットサル人口が多い首都圏のチームを追従する存在にまではなった。</p> <p>しかし東京、神奈川、埼玉などの先進地域に比べると、公式戦サッカーチームは少なく、競技人口も少ない。表記年度も引き続き、競技力向上と普及を2本柱に据え委員会、連盟を運営していく。</p> <p><数値目標> 栃木県リーグチームを男女で30チーム確保</p> <p><スローガン> 前進、栃木のフットサル</p>
<p>平成25年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)</p>	<p>①男女栃木県リーグの安定運営 ②男女栃木県選抜チームの強化 ③普及事業の促進 ④県内におけるフットサルのPR ⑤審判員の育成</p>
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<p>①栃木県フットサルリーグ ②全日本フットサル選手権栃木大会 ③全国選抜フットサル大会 ④栃木県女子フットサルリーグ ⑤全日本女子フットサル選手権大会栃木県予選 ⑥全国女子選抜フットサル大会 ⑦年代別各カテゴリーのフットサル大会 (U23、U18、U15) ⑧各種普及イベント</p>

10. 審判委員会

<p>平成25年度の活動目標</p>	<p>①各種別・各連盟との連携により審判員並びに指導者の育成強化を図り、指導システムを確立する。(短期) ②審判トレセン(ユース審判員の育成)を充実し、審判員の技術、知識、体力、パーソナリティの向上を目標に各連盟から強化審判員を輩出させる。(短、中期) ③日本、関東に通じる審判員を育成強化し、県独自の審判指導体制、育成システムを構築させる。(長期) ④WEB登録を周知徹底させ、ホームページの活用から取得講習会並びに更新講習会を充実させる。(短期)</p> <p><数値目標> 審判員登録数を1級 7名、2級 60名、3級 500名 4級 5000名、フットサル 700名、女子 10名を 目標に育成する。(中期、長期)</p> <p><スローガン> THE CHALLENGE TO REFEREE FRIEND'S DREAM (審判仲間の夢への挑戦)</p>
<p>平成25年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)</p>	<p>(1種) ①2級審判員2名、3級インストラクター1名の輩出候補者の選出と受験時期を見据えた育成をする。</p>

	<p>②中堅審判員研修会の充実 35歳以上&3級取得後5年以上の審判員を対象に実技研修会を実施して技術向上を図る。</p> <p>(2種) 審判トレセンの充実(ユース審判員、高校女子審判員)</p> <p>(3種)</p> <p>①審判員の養成。具体的には、2級以上の審判員を栃木県の各地域に確保し、地域の審判強化の中心として活躍できるようにする。</p> <p>②3種審判講習会の充実。具体的には、現状として、年に2回行われている講習会の充実を図る。</p> <p>(4種)</p> <p>①全地区において4級帯同審判員対象の審判研修会を実施。 ②年2~3回の3級審判員研修会を実施する。 ③審判と技術合同ですり合わせの研修会を実施する。</p> <p>(女子)</p> <p>①現在の3・4級審判員のフォローアップ研修会を実施する。(練習試合、連盟内トレセンを利用) ②4級審判より3級審判を1名養成する。 (4級資格取得講習会より3級審判候補としてをピックアップする) ③各チームから一人の女子審判員を養成する。</p> <p>(大学)</p> <p>①各大学は4級審判員資格を最少3名取得させ、4級の更新者を最少2名確保する。 ②4級審判取得講習会並びに審判実技研修会を開催する。</p> <p>(シニア)</p> <p>①各チームに、審判資格取得者を4名以上確保する。 ②シニアの各カテゴリー(0-40から0-70まで)において、最新のルールを正しく理解させ、年1回以上研修会を行う。</p> <p>(クラブ)</p> <p>①2級審判員1名と3級インストラクター1名を増員する。 ②クラブ強化審判員1名を上級審判員にする。</p> <p>(フットサル)</p> <p>①フットサル審判員の養成と確保(特に若手、女性) ②フットサル審判員の資質の向上を図る。 ③1級1名、2級2名、3級5名を目指す。 ④3級昇格審査会、4級取得講習会を充実する。(特に3級昇格審査会) ⑤2級3級4級更新講習会を充実する。 ⑥2級3級対象の審判研修会を実施する。(1級審判員を講師に迎えての実施) ⑦リーグ、各競技会の審判員の派遣とインストラクターを派遣する。</p> <p>(指導・育成・インストラクター)</p> <p>①6回の審判トレセン、年4回のユース審判研修会を実施する。 ②3級審判員フォローアップ研修会を実施する。 ③2級・3級審判員を強化、増員する。 (カテゴリーA:1名、カテゴリーB:2名を目標) ④インストラクターを増員(SI2:5名、SI3:20名)する。 ⑤審判トレセンを充実させ、上級審判員を誕生させる。 (審判育成システムを工夫し審判カルテの導入、各級に応じた指導体制の確立、ユース審判員、女子審判員の普及育成を図り発掘する。)</p>
--	--

	<p>(競技部)</p> <p>①kickoffサイトの有効利用 関東主催大会に派遣する審判員を各カテゴリー毎に選出・登録し、kickoffに登録して審判割当を実施する。</p> <p>②企画委員への審判割当の公開 TFAのGmailに審判割当を送信して企画委員に公開することで、インストラクターの派遣や情報公開に繋げる。</p>
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<p>(1種)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県社会人リーグや天皇杯予選などを使用して実施する。 <p>(2種)</p> <p>ユース審判員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4級審判員取得講習会をインターハイ県予選決勝戦時に実施する。 ・各県予選会にユース審判員を割当てる。 ・全日本少年サッカー大会へ派遣する。 <p>高校女子審判員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JFAによる都道府県審判トレーニングセンターを利用する。 ・JFAによる女子審判員育成・普及に関わる講習会・研修会を利用する。 <p>(上記2つを4級審判員資格取得講習会として扱う。)</p> <p>(3種)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月・・・中学校県新人戦の最終日、準決勝と決勝の時、同時に、行っている。 ・2月・・・下野杯中学生サッカー大会の準々決勝の日、4試合に関して、行っている。 <p>講習内容は、ルール解説、試合観戦(割り当て者もいる)、質疑応答、技術トレーニング。これらの内容を、更に充実させると共に、情報交換の場としてネットワークを密にする。</p> <p>講習会における目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審判として、「為すべきこと」を確認する機会とする。 ・県内各地、現場で審判に関する内容の疑問や質問等をすくいあげる場とする。 ・審判委員の資質を大きく秘めている者を発掘する、機会とする。 ・「仲間意識」を確認して、サッカーの魅力を再確認できる機会とする。 <p>(4種)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地区から推薦された派遣審判員をカテゴリー分けする。 ・カテゴリーに準じた審判を割当てる。 ・2級審判育成プログラム、3級インストラクター育成プログラムの策定。少年サッカー審判トレセンを実施する。 ・県大会においてマッチコミッショナーを設置する。 <p>(女子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の3・4級審判委員のフォローアップ研修会を実施する。 <p>(練習試合、連盟内トレセンを利用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4級審判より3級審判を1名養成する。 <p>(4級資格取得講習会より4級審判をピックアップする)</p> <p>(大学)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学のリーグ戦を利用して4級審判取得講習会並びに審判実技研修会を実施する。

	<p>(シニア)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 審判の取得・更新を通知で啓発する。 <p>(フットサル)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ フットサルの1級審判員を輩出する。 ・ 栃木県フットサルリーグ（1部・2部）への審判員の派遣とインストラクターを派遣する。 ・ 関東フットサルリーグへの審判派遣とインストラクター協力 ・ パーモントカップ県予選、U15大会兼緒戦への審判員を派遣する。 ・ プーマカップ栃木県予選へ審判員を派遣する。 ・ 栃木県女性フットサルリーグへ審判員を派遣する。 <p>(指導・育成・インストラクター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1種から4種審判員の合同研修会並びに各級でのフォローアップ研修を設け充実する。 ・ 年度当初に強化審判員を指定する。 ・ 年間80試合にアセッサーを割り当てる。 ・ 年2回のインストラクター研修会を実施し資質向上を図る。 ・ 年2回以上の女子トレセンを実施する。 ・ 国際交流プログラムを検討し、技術委員会と連携を図りながら帯同で派遣する機会を設ける。
--	--

11. キッズ委員会

<p>平成25年度の活動目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 巡回指導について、栃木SCとの連携強化と各クラブチームへの要請をしていきたい。 ・ 各地区主催フェスティバルを保護者も参加できるように年間2回開催できるようアプローチしていく。 ・ JFAフェスティバルの地区開催と、ゲーム形式ばかりではない内容の検討をしていきたい。 ・ 4種指導者へ向けて、少年連盟と連携をとりながら地区ごとの講習会を行っていきたい。 ・ 各地区少年連盟でのキッズ委員会の立ち上げと区内での協力体制の強化 ・ 指導者の資質を上げるために講師を招いての研修会の企画、運営を年1回以上行いたい。
	<p><数値目標></p> <p>子ども、大人交えて延べ15,000人</p>
	<p><スローガン></p> <p>キッズから栃木のサッカーを変えていこう</p>
<p>平成25年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 巡回指導 150回（実質80園・小学校30校） ・ 各地区主催フェスティバルや交流戦、大会などの年2回以上開催 ・ JFAフェスティバルの地区開催と、内容検討。 ・ 4種指導者へ向けての講習会・研修会の開催（年間100人）
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栃木SCスマイルキャラバン ・ 栃木県サッカー協会キッズプログラム巡回指導 ・ 地区主催キッズサッカーフェスティバル、サッカー教室など ・ JFAキッズサッカーフェスティバル ・ キッズリーダー養成講習会

2012シーズンを振り返って

栃木サッカークラブ
主務 八木 貴志

「J1へ」昨シーズンと同様のスローガンを掲げ挑んだ2012シーズン。昨シーズンの悔しさを胸にリーグ戦を戦った。開幕につまずいたものの上々のスタートを切った。今季はプレーオフ制度が導入され、6位以内にはいれば昇格の可能性があるため終盤まで熱い試合が繰り返された。栃木SCもぎりぎりまで可能性を残していたが結果的に11位となり目標であるJ1昇格を達成することはできなかった。非常に悔しい思いをしたシーズンであった。

私が主務としてトップチームに携わるようになって2年のシーズンがすぎた。主務の主な仕事はスケジュール管理や用具の管理、キャンプ・アウェイ遠征の手配など多岐に渡るが、選手達が練習や試合に集中できるような環境整備を丹念に行っていく。選手達の気持ちや願いをイメージしながら、先を見越し、細かな点にまで配慮する。僅かな綻びが選手達のストレスになってしまわぬように。

輝かしい表舞台の裏では、一瞬の判断ミスがその後の人生を左右してしまう厳しいプロの世界が広がっている。選手達は僅かな妥協も許さないそうした世界の中で、時には不安や恐怖を抱いている。私はそうした彼らの心の声を聞いてあげること、主務として重要な役割の一つであると思っている。自分にしてあげられる事は決して多くはないが、少しでも彼らが前に進めるように力になりたい。自分の掛けた言葉に一瞬でも励まされる選手がいてくれたらそれでいい。主務としてチームに何ができるか？いつも自分に問いただしている。きっとチームの為、選手達の為に出来る事がもっと沢山あるだろう。ほんの些細な事であっても、このクラブが希望に向けて進んでいけるのであれば、全力で取り組むことが自分自身の責務だと考えている。

あらゆる事態に臨機応変に対応していく能力も主務として必要不可欠となる。

事前の十分なリスク管理を必要とし、起こり得るいくつかのリスクを想定した上で事前準備を徹底すること。

こうした仕事力は、緊張感溢れる毎日の中で培われたものではないかと振り返る。厳しい世界に身を置く事は自分自身にとっても大きな成長の糧になってくれているように感じている。

今シーズンからは宇都宮市の協力により河内運動公園が練習場として使用することができる。宇都宮市にかぎらず栃木県全域からいただく温かいサポートの上に栃木SCは成り立っている。J1のビッグクラブと比較すればソフト・ハード面双方においてまだまだ充分とは決して言えないが、それでも沢山の

方々のご尽力が自分達の活動の背景にある事に心から感謝し、何としても県民の悲願でもあるJ1昇格を果たしたい。これは、私個人の言葉では決して無い。監督はじめ選手やスタッフ全員が常に抱いている想いである。

どんな逆境にも負けない心をしっかりと持ちシーズンを通して戦い続けることが昇格のカギとなろう。またクラブ全体で力をあわせ団結すること。経験のある選手を補強することもできた。チームにかけているパーツを補ってくれることと期待している。

今シーズンのスローガンは「感動！」である。栃木をささえてくれるすべての人に感動してもらえようような戦いをしていきたい。そして目標であるJ1に昇格し感動をわかちあいたい。

栃木ウーヴァフットボールクラブ

日頃から、栃木県サッカー協会は皆様には多くのご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございます。昨シーズンは不本意な成績ではありましたが無事JFLを終わることが出来ました。今シーズンもJFLで闘うことが出来ますこと改めて御礼申し上げます。



『結束』というチームスローガンを掲げたJFL加盟3年目は、チーム一丸となって戦ったものの、最も苦しいシーズンとなりました。開幕早々から、負傷者が続出し、チームはリズムを崩し降格ラインを行き来しました。9月に監督を交代し、コーチだった井出が就任。さらにコーチ陣の増強で残り9試合を3勝3分3敗と奮闘しましたが、最下位に終わりました。本来自動降格となることを、退会するチームがあった関係で入れ替え戦のチャンスをつかみ、これを制して残留を決めました。入れ替え戦の2試合には、通常の2～3倍の入場者が詰め掛け、その熱い声援は今シーズンの再起を目指す大きな力となるはずでした。コーチングスタッフの増強も、立て直しへの重要な布石の一つになります。新たに多田監督を迎えた他、今年の終盤戦で監督を務めた井出がヘッドコーチに就任し、厳しい戦いを乗り越えた経験を生かし監督を

サポートします。フィジカル面の弱さがけがを誘発したことも猛省し、新たに茂木がフィジカルコーチを務めることになりました。全選手がアマチュアで、厳しい練習環境の中、守護神のGK小林がキャプテンとしてチームを引っ張ります。また基本に立ち返り、プロ意識の再確認、若手とベテランの融合、規律の再徹底などチーム改革を図り、子どもたちや地域の人々に『夢・希望・感動』を感じてもらえる試合を披露します。子どもたちのサッカースクール実施やイベントへの積極参加などを含めた、地域貢献活動も積極的に進めます。なお、今年度から足利市がセカンドホームタウンとなることで、栃木県南地域の活動が広がり、行政主導の支援活動が、知名度の向上、観客動員増、クラブ運営の改善へ結び付くことに大きな期待をしています。スポーツを通じた栃木県南地域コンソーシアムの構築と、子どもたちの健全育成・地域振興をめざします。今シーズンもご支援宜しくお願い致します。



2012年関東リーグを振り返って ・・・JFL昇格にむけて・・・

ヴェルフェたかはら那須

2012年はヴェルフェたかはら那須にとって大きな飛躍ができた1年でした。ヴェルフェたかはら那須（旧矢板SC）は1978年創立、今年で35年目を迎えました。関東リーグ所属通算12年目の去年、関東リーグ1部におきまして、8勝5分5敗、10チーム中3位、矢板SC時代の2006年以来、2度目の過去最高順位で関東リーグを終了しました。

8月に行われた天皇杯栃木県最終予選（栃木トヨタカップ）では県内のアマチュアライバルチームである栃木ウーヴァFC（JFL）に接戦の末競り勝つことができ、3年振り2度目の優勝・天皇杯全日本大会出場も決めることができました。

5月にはスポーツ振興くじ（toto）の助成を受けて、矢板市内に活動拠点施設「ヴェルフェフィー

ルド」を整備しました。人工芝のフットサルコート2面とクラブハウスを確保し、ナイター設備も整えました。地域との交流をさらに進め、スポーツの普及・推進に向けて活動の幅を広げていくことができ、少しずつではありますが、地域のみならずに応援されるチーム、地域に根ざしたクラブになりつつあります。

2013年は去年達成できなかった、関東リーグ優勝、全国社会人出場、JFL昇格、そして2年連続天皇杯全日本大会出場を目指して全力で戦ってまいります。自分達の地域の人々に感動や元気を与えられるような、地域に愛されるチームを目指して・・・。

JFL昇格を最大限の目標にし、一戦一戦最大の情熱（passion）を持って、仕事・家族・練習・生活にベストを尽くして取り組んで行きたいと思っておりますので2013年も暖かい御声援をよろしく申し上げます。



2012年シーズンを振り返って

JBUS宇都宮サッカークラブ監督 長谷川 修治

今シーズンは私達J Bus宇都宮サッカークラブにとって県社会人1部リーグ初優勝という結果はもとより、チームの成長という意味でも実りあるシーズンでした。

2012年以前のチームは、チーム戦術と胸を張れるものは無いに等しく選手個人の力に任せているようなチームでした。

そんなチームを成長させてくれるきっかけになったのが2012年栃木県開催の関東社会人サッカー大会でした。

その年は力及ばずチームでの出場は逃したのですが、スタッフや観客という立場で関わらせていただき大会を勝ち抜いていくチームのレベルの高いサッカーを目の当たりにしました。

個人の力の高さはもちろんですが、チームの完成度の高さ、攻守統率のとれた連動性、サッカーは11人でするものではなく11人が1つになり行うも

のだと教えられました。

そこで学んだ事をベースに自分達のチームにあった戦術を2012シーズン初めのミーティングで話し合い、今シーズンは「チーム力向上と皆が同じ方向を向いて1つになること」を確認しスタートしました。

シーズン初めはやはり簡単にはいかず選手たちの戸惑いも感じましたがリーグ戦が始まる頃になると守備は少しずつ浸透し始めそれなりの成果も感じましたが、攻撃はまだまだ個人の力に頼る部分が多い状況でした。

リーグ戦が後期に入る頃になると、攻守両面にチーム全体の連動した動きが表れ始め、チームの求めるサッカーが出来る様になり、リーグ前期は得点17失点5に対し、後期は得点26失点3と試合を重ねると共に確かな成長を感じる事ができたリーグになりました。

その後に行われた関東社会人サッカー大会では、神奈川県第2代表の横浜GSFCコブラとの試合を行いました、リーグ同様チーム全員で気持ちを1つにして勝利を目指しましたが力及ばず0-1で悔しい敗戦となりました。

この大会の敗戦で得られた自分達の反省や課題をしっかりと受け止め、日々努力を重ねチーム、個人、とさらに成長し関東に通用するチーム作りをしていきたいと思えます。

そして、私達に社会人サッカーという素晴らしい環境を与えてくださっている皆様に感謝の気持ちを忘れず、少しでも栃木県のサッカーを盛り上げていくお手伝い出来るよう頑張っていきたいと思えます。



新調した横断幕(1.5m×8.0m)

2012年シーズンを振り返って

AS CASA監督 清水亮宜

AS CASAにとって2012年シーズンは、最高の一年でした。

クラブ創立以来『楽しく勝つサッカー』をモットーにやってきました。なかには『あまい』と言う声もありましたが、今回、それが実ったと思います。

クラブ選手権栃木大会優勝、県リーグ2部Aブロック優勝と負けなしで、2冠を達成することが出来ました。その中でも、栃木県代表としてクラブ選手権関東大会に出場し、良い経験をさせて頂きました。

9月15日、16日、17日、茨城県ひたちなか市総合運動公園スポーツ広場で開催され、結果からお伝えすると、2回戦敗退(3位)で終わりました。

2試合とも、いつもやっている90分ゲームではなく70分ゲーム。天候は前半快晴、後半豪雨という状況の中行われました。

この大会のポイントに『2失点』をキーワードにあげました。県内の公式戦でも16試合で79得点、1試合平均で4.9得点と攻撃力には自信があり、70分のゲームでも2点は取れると確信していました。初戦の石下第一FC(茨城県代表)に3-2で勝利。続く与野八王子クラブ(埼玉県代表)とは2-3で敗戦。

この大会で改めて感じたことは、個人の技術に差はないが、決めるところは確実に決める。失点に関してもミスは見逃してくれない。分かっていたことでしたが、再確認できた大会でした。

今シーズンよりAS CASAは上のカテゴリーにあがります。今後も今までの教訓を生かし、先ず、サッカー人として日々支えてくれる方々に感謝の気持ちを持って、下都賀勢として久々の1部昇格なので、頑張っていきたいと思えます。



1. 高校連盟より

高体連サッカー専門部委員長
小田林 宏至



現在、高校連盟は、63校が県高体連に加盟し、各大会に参加しています。

11月に行われた第91回全国高校サッカー選手権大会栃木大会2次予選会は、インターハイ栃木県予選の上位8チームと、8月に実施した1次予選を勝ち抜いた16チームの併せて24チームが熱戦を展開しました。

準決勝は、佐野日大高校とさくら清修高校、真岡高校と宇都宮工業高校の対戦となり、佐野日大高校と真岡高校がそれぞれ決勝戦進出を決めました。

決勝戦では、佐野日大高校が粘る真岡高校を2対1で破り、2年ぶり7度目の優勝を果たし、全国大会への切符を手に入れました。

佐野日大高校は、全国大会では、2回戦から登場し、奈良県代表の香芝高校相手に前半に先制されるも後半に追いつき、1対1で試合終了。PK方式で勝利し、次回進出を決めました。

続く3回戦では、優勝した宮崎県代表の鵬翔高校と対戦し、前半の決定機をものにできず、結果0対3で敗れましたが、最後まで諦めない戦いは記憶に新しいところです。

また、佐野日大高校は、関東プリンスリーグ2部で残留が決まりましたが、次年度で各地区のプリンスリーグの2部が廃止されます。同校には、1部昇格を目標に本県代表として是非頑張ってもらいたいところです。

さて、県内に目を向けますと、ユースリーグは、今年度より、各部ともグループ10チームとし、2回総当たりで実施しました。

試合日程や、学校行事との関連、審判や競技役員の問題等ありますが、「多くの選手により多くの試合を経験させてあげたい」というコンセプトで、課題をひとつずつ解決して、よりよい方法を見つけて行きたいと専門部一同頑張っているところです。

今後、本県から関東1部、そして全国プレミアリーグで活躍できるチームが増えるよう、各校の健闘を期待したいと思います。

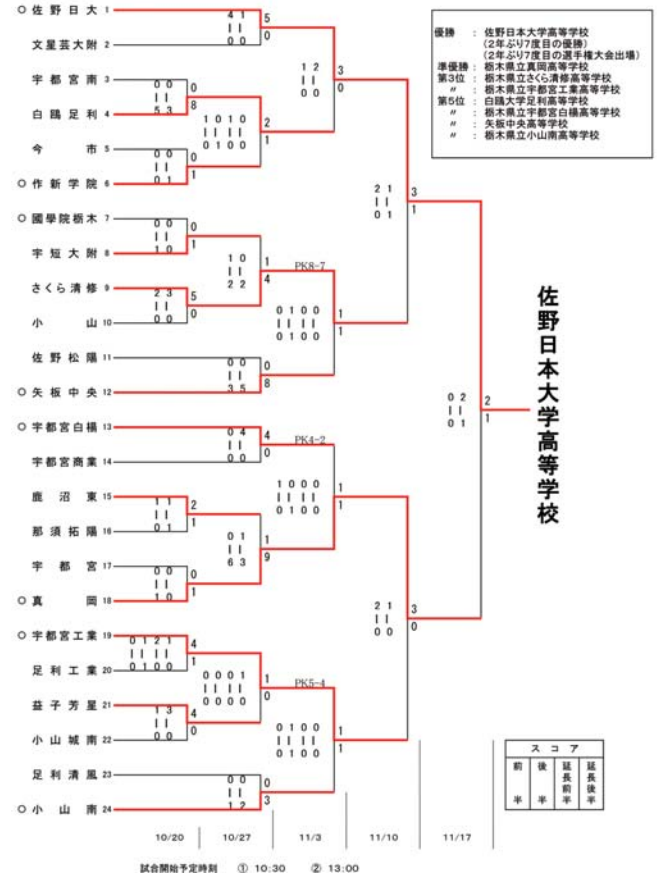
専門部では、さらに技術部と審判部で協力して、できることから研修を行い、県全体のレベルアップを図ることとしています。

加えて、本年度は、キッズ連盟との協力で、小山南高校、小山西高校、鹿沼東高校、宇都宮高校で、キッズ交流事業を実施しました。さらに来年度も交流の輪を広げていければいいと考えています。

2. 大会結果（県内大会）

①全国高校サッカー選手権大会栃木県大会
佐野日大高校(5年ぶり4度目) 全国大会出場

平成24年度 第91回 全国高等学校サッカー選手権大会 栃木大会 決勝戦結果
平成24年10月20・27日 11月3・10・17日



②高円宮杯U-18サッカーリーグ2012
プリンスリーグ関東 結果

- 1位 横浜FCユース
- 2位 八千代高校
- 3位 大宮アルディージャユース
- 4位 関東第一高校
- 5位 鹿島学園高校
- 6位 佐野日大高校
- 7位 柏日体高校
- 8位 成立学園中学・高校
- 9位 湘南ベルマーレユース
- 10位 第一学院高校

以上の結果から、佐野日本大学高校:残留

③高円宮杯サッカーリーグU-18 2012
ユースリーグ栃木 結果

- 『1部』
- 1位 : 栃木SCユース
 - 2位 : 矢板中央高校
 - 3位 : 真岡高校

- 4位：宇都宮白楊高校
- 5位：さくら清修高校
- 6位：佐野日大高校B
- 7位：宇都宮短期大学附属高校
- 8位：國學院栃木高校
- 9位：栃木高校
- 10位：文星芸大附属高校

『2部グループA』

- 1位：宇都宮工業高校
- 2位：益子芳星高校
- 3位：矢板中央高校B
- 4位：鹿沼高校
- 5位：石橋高校
- 6位：宇都宮白楊高校B
- 7位：大田原高校
- 8位：小山高校
- 9位：黒磯高校
- 10位：宇都宮東高校

『3部グループa』

- 1位：さくら清修高校B
- 2位：矢板中央高校C
- 3位：矢板東高校
- 4位：黒磯南高校
- 5位：那須清峰高校
- 6位：那須拓陽高校
- 7位：高根沢高校
- 8位：鳥山高校B
- 9位：幸福の科学学園
- 10位：馬頭高校

『3部グループc』

- 1位：作新学院高校
- 2位：宇都宮清陵高校
- 3位：今市高校
- 4位：宇都宮白楊高校B
- 5位：宇都宮工業高校B
- 6位：今市アルシオーネ
- 7位：宇都宮南高校
- 8位：益子芳星高校B
- 9位：真岡工業高校
- 10位：真岡北陵高校

「次年度昇格チーム」

- ①今年度2部→次年度1部へ昇格
 - ・小山南高校
 - ・白鷗足利高校
- ②今年度3部→次年度2部へ昇格
 - ・鹿沼東高校
 - ・佐野日大高校C
 - ・足利高校
 - ・足利工業大学附属高校

『2部グループB』

- 1位：小山南高校
- 2位：白鷗足利高校
- 3位：小山西高校
- 4位：真岡高校B
- 5位：宇都宮高校
- 6位：足利工業高校
- 7位：青藍泰斗高校
- 8位：今市工業高校
- 9位：宇都宮北高校
- 10位：佐野松桜高校

『3部グループb』

- 1位：鹿沼東高校
- 2位：佐野日大高校C
- 3位：小山南高校B
- 4位：宇都宮商業高校
- 5位：栃木高校B
- 6位：茂木高校
- 7位：宇都宮高校B
- 8位：白鷗足利高校B
- 9位：栃木工業高校B
- 10位：青藍泰斗高校B

『3部グループd』

- 1位：足利高校
- 2位：足利工業大学附属高校
- 3位：足利清風高校
- 4位：栃木工業高校
- 5位：小山城南高校
- 6位：佐野東高校
- 7位：佐野高校
- 8位：壬生高校
- 9位：栃木翔南高校
- 10位：佐野日大中等教育学校

3. 北信越かがやき総体に参加して

佐野日大高校 サッカー部顧問 齋藤琢磨

新たなチーム体制で臨んだ初めての全国に繋がる大会。インターハイ栃木県予選は想像通りの厳しい戦いとなりました。優勝すれば11年ぶりのインターハイ全国出場ということで何もかもが手探りの状態でしたが、選手・保護者・校外関係者・スタッフの力を合わせ厳しい大会を何とか勝ち抜くことができました。

全国大会では30度を超える猛暑の中、3回戦まで3連戦という過酷な状況でしたが、129名の全部員の頑張りと支えてくださる関係者の御尽力をいただき、何とか全国で2勝をあげることができました。今後はさらに気を引き締めて、チームそして県全体のレベルアップを目指し頑張っていきたいと思います。今大会を含め、お世話になっている関係者の皆様に感謝し、厚く御礼申し上げます。



- 1回戦 佐野日大1-0大垣工業(岐阜)
- 2回戦 佐野日大3-3(5PK3)創造学園(長野)
- 3回戦 佐野日大1-1(3PK4)大阪桐蔭(大阪)

4. 全国高校サッカー選手権大会に参加して

佐野日大高校 監督 斉藤芳幸

厳しい栃木県予選を4試合勝ち抜き、14年ぶりに夏・冬連覇を達成することができました。これもひとえに、生徒、保護者、関係者の皆様の賜と感謝し、この場を借りまして御礼申し上げます。

さて、全国大会ですが、相次ぐアクシデントの中、優勝を目標に一戦一戦全力で最後まで諦めることなく、栃木県代表の誇りを胸にチーム一丸となって戦いました。優勝した鵬翔高校(宮崎)に3回戦で敗れベスト16でしたが、シュート数なども相手を上回り、果敢に攻め込みました。負けはしましたが、栃木県のサッカーレベルは全国でも通用することを確信し、近い将来、栃木県の代表チームが全国制覇できるよう日頃から切磋琢磨し、努力していきたいとあらためて感じました。今大会におきまして、ご支援ご声援誠にありがとうございました。



- 2回戦 佐野日大1-1(5PK4)香芝(奈良)
- 3回戦 佐野日大0-3鵬翔(宮崎)

栃木SCユース2012年度 活動報告

栃木SCユースコーチ
山崎 透

2012年度栃木SCユースは、高円宮杯U-18サッカーリーグ2012ユースリーグ栃木1部、関東クラブユース選手権、Jユースカップに参加しました。

2012年度は、これまでトップチームでヘッドコーチをしていた阪倉さんが監督になり、自分で考えて判断できる自立した選手、攻撃では、ボールを大事にしながらかつ主導権を握ったサッカー、守備では、意図的にボールを奪うこと、ボールを奪われた後の素早い切り替え、攻守にハードワークすることをコンセプトにスタートしました。

高円宮杯U-18サッカーリーグ2012ユースリーグ栃木1部では、14勝1分け3敗の成績で優勝することができました。リーグを通して、ボールを大事にしながらかつ主導権を握ることは出来ていたのではないかと思います。まだまだパス&コントロールの質が低く突破にかかる時のパス、ラストパスの精度、動きながらのボールコントロールといった所での雑なプレーが目立ち、相手DFを崩し切れない場面が多くあったように思います。テクニックの向上はもちろんのこと、観ること、身体の向きを作ること、OFFの選手の関わり、ボールを動かしながらゴールに向かうためのポジション取りなどを高めていく必要があると感じました。攻撃面では一定の成果を残せた一方で守備では大きな課題が残りました。リスク管理で準備ができていないこと、ゴール前での守備での甘さがありました。攻撃している時の良い準備、コミュニケーションが取れていない、ゴール前で人数が揃っているのにも関わらずボールに寄せることが出来ない、マークを観ることができずに簡単に失点してしまうことが多くありました。特にゴール前の厳しい守備、粘り強い守備は今後の大きな課題であります。

関東クラブユース2次リーグでは、初戦で横浜F・マリノスユースと対戦し、狙い通りの戦いで引き分けることが出来ましたが、三菱養和SC戦では、ボールを大事にしながらかつゴールに向かう自分達のサッカーが出来たと思えますが、相手のパワープレーに屈し1-3で敗戦、水戸ホーリーホックユース戦では、終了間際に追いつかれて引き分け、日本クラブユース選手権に出場するための順位決定戦を懸けての横浜FCユース戦では、攻守において

自分達のやろうとするサッカーが全く出来ずに0-2で敗戦しました。関東クラブユースでは、他チームの技術の高さ、身体能力パワーの違い、勝負が懸かった時の勝負強さに差を感じました。

Jユースカップでは、優勝したコンサドーレ札幌ユース、大宮アルディージャユース、ベガルタ仙台ユースと対戦することが出来ました。どのチームもテクニック、パワーがあり、特にアウェーで対戦したコンサドーレ札幌ユース戦では、最後の所で身体を張ってディフェンスする、崩しの際のプレー精度、決定力といった両ボックス前での質の違いを大きく感じさせられました。グループリーグ最終戦のベガルタ仙台ユース戦は1点先制されながらも逆転で勝つことが出来たことは今後繋がる勝利だと思います。

プリンスリーグを懸けた参入戦では、埼玉県武南高校と対戦しました。トップにボールが入ってはいるもののキープが出来ない、ポストプレーの質が低く今一つリズムを掴めなかったように思います。先制され後半の終盤に追いつき勝てる雰囲気はありましたが、延長戦に入り運動量が落ち最後は力尽きてしまいました。

1年間を振り返り、チームとしては、ボールを大事にしながらかつ主導権を握ったサッカーの追求していくこと、グループで意図的にボールを奪うこと。個でボールを奪う、ボールを簡単に失わない、攻守にハードワークする、力強さパワーといった個のレベルアップも必要不可欠であると感じました。

2012年度は、多くのチームと対戦し、色々なスタイルのチームがあり良い経験、勉強をすることが出来ました。リーグ運営に際してもご迷惑をお掛けしました。本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。

H24年度参加した各種大会を 振りかえって

今市FCアルシオーネU-18
監督 井上和久

今年度は、選手16人で高円宮U-18サッカーリーグ栃木大会（3部）、日本クラブユース関東U-18、KCY 1次リーグ、高円宮U-18サッカーリーグ栃木大会（3部）に臨みました。

高円宮U-18サッカーリーグ栃木大会（3部）では、2部への昇格を目指し、リーグ戦に臨みまし

たが結果は、前期、4勝4敗でグループ5位となり、後期は4勝4敗1引き分けで全ての日程が終了しました。全体を通し5位で終了し、残念ながら2部昇格トーナメントに進むことが出来ませんでした。大会を通して、攻守両面においてチームとしての戦い方の徹底が図れなかったことが原因であり、チームを指揮する立場として本当に悔しい思いをしたリーグ戦でした。来年度は、今年度の反省を踏まえ、しっかり練習を重ね、再度2部リーグへの昇格を目指し頑張っていきたいと思えます。

次に、日本クラブユース関東U-18大会1次予選（H24年4月中～5月上）についてですが、結果は2勝2敗で5チーム中、3位となりました。1次予選突破は、できませんでした。関東大会で2勝できたことは日ごろの練習の成果を試合の中で発揮できたことが結果に繋がったと思います。来年度は、1次予選突破を目指し頑張りたいと思えます。

最後に、2012年度 KCY 1次リーグ予選（H24年7月中～8月下）についてですが、結果は1分4敗で6チーム中、6位となり最下位の結果となってしまいました。しかし、上位1位2位のチームに負けはしましたが、どちらも、1対2（一点差負け）と拮抗したい試合ができました。

今年度は、全体を通してなかなかいい結果を出すことができませんでしたが、今年度の反省を踏まえ、しっかり練習を重ね、また来年度も頑張っていきたいと思えます。

高円宮杯を振り返って

栃木サッカークラブ ジュニアユース
花輪 浩之

6月のクラブユース関東大会で横浜FC JYに大敗してから、選手・スタッフのチーム目標は『横浜FC JYともう一度戦い、勝つこと！』でした。結果的に、この思いを強く持ち、それからの日々のTRで努力し続けられたことが今回の全国大会出場につながっていったと思います。

関東大会では栃木県リーグ所属の我々にとっては対戦した4チーム全てが格上のチームでしたが、選手は怯まず・逃げずに戦い、自分の特長・技術・強いメンタリティーを存分に発揮してくれたと思います。特に、三菱養和SC巣鴨JY戦、横浜F・マリノスJY追浜戦では、サブメンバーも含めた選手一人ひとりが、チーム・仲間のためにやれるこ

と・やるべきことを考え、行動し、数か月前では考えられないほど『チーム』になっていました。相手を圧倒するまではいきませんが、攻撃では局面で数的優位を作り、モビリティのある攻撃からチャンスを多く作り出すことができました。守備では相手のストロングポイントを消して、連動性のある守備で相手に自由を与えませんでした。これらのことを選手全員がピッチで表現できたこと、そして『強い思い』が重なり、念願の関東大会突破！全国大会出場！！を掴み取ることができました。

12月の全国大会ではこれ以上ない組み合わせとなりました。1回戦で九州リーグ1位の大分トリニータU-15、2回戦では夏の日本クラブユース選手権大会準優勝のヴィッセル神戸U-15、そして勝ち進めれば準々決勝で『横浜FC JY』。1回戦の大分戦は緊張もあり、あまり良い内容とはいえませんでした。ただ、80分間集中して戦い、フィジカルの強い相手に対して粘り強く対応し2-1で勝利することができました。内容の悪いなか勝ち切れたこの試合で感じたことは、選手たちはこれまでの厳しい戦いを経験して自信を持ち、本当に逞しく成長していたことでした。そして『目標』を達成するためには絶対に勝たなければならない2回戦の神戸戦。選手たちは前日の1回戦とは違い試合開始からとても良いパフォーマンスを見せてくれました。守備では相手に自由を与えず組織的にボールを奪い、攻撃では連動した動きでボールを保持しながら多くのチャンスを作り出していました。格上と思われた相手に五分五分の展開。そして後半、流れの中から最高のゴール。しかし直後にPKを与えてしまい失点。足が止まり始めた終盤に失点。結果は1-2の逆転負けでした。

結果的に『目標』にはあと一步届きませんでしたが、それに向かってチーム全員が本気で努力したことでこのような素晴らしい経験を得ることができました。経験は次の予測を生むと私は思っています。だからこそ私自身指導者としてもっと学び成長していかないと、選手たちに多くの経験を与えられないと改めて感じました。

最後になりましたが、ご協力いただいた皆様から心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

第43回関東中学校サッカー大会



菅谷 昌宏

第43回関東中学校サッカー大会は、宇都宮市・鹿沼市・小山市・壬生町を会場に8月6日から9日の日程で開催されました。上位7校に与えられる全国大会の出場権を目指して熱戦が繰り広げられました。

その中で決勝に勝ち上がったのは東京都代表のかえつ有明中と群馬県代表の吉岡中でした。決勝戦はお互いの持ち味を出し合い好ゲームとなりましたが、かえつ有明中が粘る吉岡中を振り切り、初優勝を果たしました。

本県代表の今市中は持ち前の攻撃力を生かし茨城県開催の全国大会への切符を手にはしましたが、南河内第二中は惜しくも出場権獲得はなりませんでした。

約2年前から大会の準備を進めてきましたが、多くの方々の協力を得て無事に大会を運営することができました。また、栃木県サッカー協会をはじめとする関係諸団体にも物心両面のご支援をいただき、この紙面をお借りしてお礼を申し上げます。

第4種委員会 第41回栃木県少年サッカー選手権大会



10月14日から4日間にわたり、第41回大会が行われました。

佐野SSS：関口昇悟さんによる選手宣誓で大会がスタートしました。

187チームが参加した今大会も多くの名勝負が生まれました。決勝は栃木SCジュニア（宇河）対TEAMリフレSC（宇河）となりました。両者一歩も譲らぬ好ゲームとなりましたが、またしても栃木SCジュニアが底力を見せ優勝しました。準優勝はTEAMリフレSC、第3位には昭和・戸祭SC（宇河）、間々田FCがむしやら（下都賀）が輝きました。

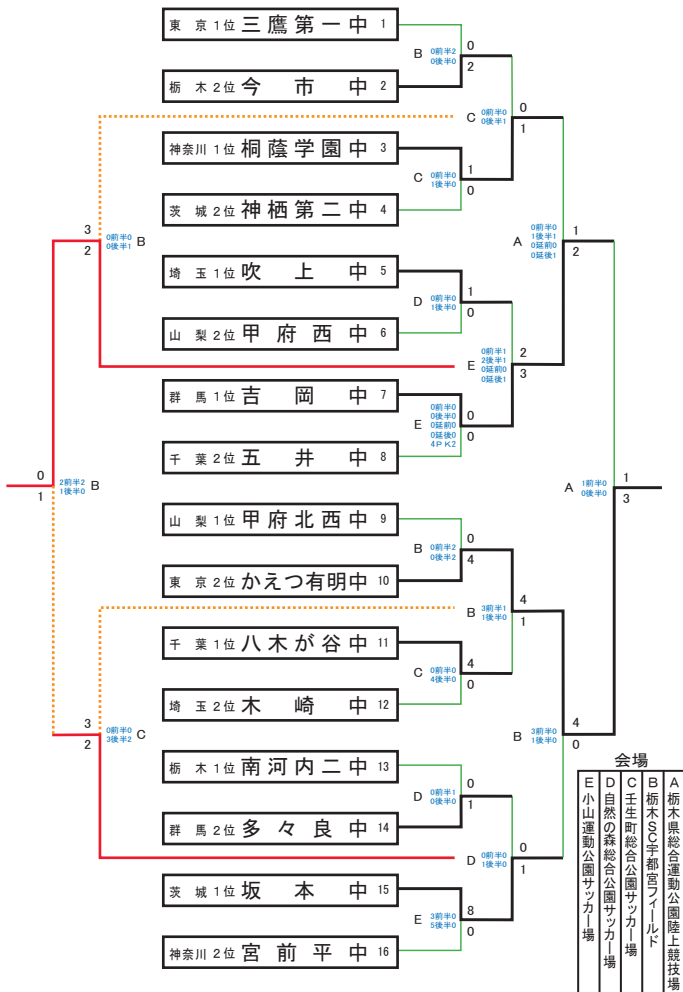


<優勝した栃木SCジュニア>



<準優勝したTEAMリフレSC>

期日：平成24年8月7日(火)～9日(木)





<第3位の昭和・戸祭SC>



<優勝したともぞうSCジュニア>



<第3位の間々田FCがむしゃら>



<準優勝の今市第三カルナヴァルJr>

また、10月20日、27日にはジュニアの部も開催されました。4年生以下のフレッシュな大会です。結果は、御厨フットボールクラブ（両毛）、ともぞうSCジュニア（宇河）がブロック優勝しました。準優勝はHFC ZERO（芳賀）、今市第三カルナヴァルジュニア（上都賀）でした。

第22回バーモントカップ 全日本少年フットサル大会 栃木県大会

11月17日、18日にわたり、フットサルの全国大会予選となるバーモントカップが行われました。

各地区予選を勝ち上がった48チームが参加し、熱戦が繰り広げられました。決勝は間東FCミラクルズ（下都賀）対おおぞらSC（芳賀）の対戦となりました。白熱した決勝戦となりましたが、間東FCミラクルズが制し優勝。全国大会の切符を手にしました。準優勝はおおぞらSC、第3位にはFC SFIDA（塩谷）とJFC Rivo Scelto（南那須）が輝きました。



<優勝した御厨フットボールクラブ>



<準優勝したHFC ZERO>



<優勝した間東FCミラクルズ>



＜準優勝したおおぞらSC＞

第23回関東選抜少年サッカー大会

茨城県ひたちなか市総合運動公園スポーツ広場・協会グラウンド・新光町グラウンドにおいて、12月1日（土）・2日（日）行われました。

栃木県代表として、栃木トレセンと7地区選抜大会で優勝した宇河トレセンが参戦しました。



栃木トレセンは、予選リーグを勝ち抜き、決勝トーナメントに進出しました。しかし、準決勝で茨城トレセンに敗れ、第3位となりました。宇河トレセンは、予選リーグ1勝2敗でした。

QUALIER CUP 第30回栃木県少年サッカー 新人大会

1月12日から3日間にわたって新人大会が開催されました。

大会は各地区の予選を勝ち上がった54チームが優勝を目指して激しい戦いを繰り広げました。決勝日に勝ち進んだのは、ヴェルフェU-12（塩谷）、間東FCミラクルズ（下都賀）、FCみらいU-11（宇河）、リフレSC（宇河）、FC西那須21アストロ（北那須）、ともぞうSC（宇河）の6チームでした。決勝は、FCみらいU-11対ともぞ

うSCの宇河勢対決となりました。1点を争う好ゲームとなりましたが、ともぞうSCが1-0で勝利し、優勝しました。



＜優勝のともぞうSCジュニア＞



＜準優勝のFCみらいU-11＞

第11回UPP CUP 栃木県少年サッカー市町村選抜大会

2月2日から3日間にわたって、県内市町から選抜された48チームが参加し、行われました。

最終日まで勝ち上がった8チームにより、決勝トーナメントが行われました。決勝は上三川選抜（上三川町）対矢板選抜（矢板市）となりました。激しい攻防が繰り広げられましたが、好機を得点に結びつけた上三川選抜が3対0で矢板選抜をくだし、初優勝を飾りました。準優勝が矢板選抜。第3位が大田原2013（大田原市）と、いちかい選抜（市貝町）、敢闘賞は、宇都宮北部選抜（宇都宮市）小山選抜（小山市）真岡ドリーム（真岡市）茂木select（茂木町）でした。



<優勝の上三川選抜>



<準優勝の矢板選抜>



<第3位の大田原2013>



<第3位のいちかい選抜>

<重要なお知らせ>

過日、日本サッカー協会の理事会において、全日本少年サッカー大会の持ち方について議論されました。その結果、2015年には、全日本の大会を12月に開催することが決定されました。各都県ともこの決定を受け、日程調整に苦悩しております。

栃木県においても、2015年に向けて、日程等について検討を始めました。

各チームの皆様には、ご理解・ご協力をいただきたく思います。よろしくお願いいたします。

ねんりんピック宮城・仙台2012

競技組合せ表(1)

○ 勝ち、△ 分、× 負

チーム名	宮城(イ)	宮城(ロ)	仙台(イ)	仙台(ロ)	勝点	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
1 宮城(イ)	-	1 0 0	2 Δ 2	2 0 1	7	2	1	0	5	3	2	1
2 宮城(ロ)	0 × 1	-	1 × 2	2 0 1	3	1	0	2	3	4	-1	3
3 仙台(イ)	2 Δ 2	2 0 1	-	1 Δ 1	5	1	2	0	5	4	1	2
4 仙台(ロ)	1 × 2	1 × 2	1 Δ 1	-	1	0	1	2	3	5	-2	4

Aブロック

チーム名	岩手県	相模原市	奈良県	佐賀県	勝点	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
1 岩手県	-	5 0 0	1 0 0	2 0 0	9	3	0	0	8	0	8	1
2 相模原市	0 × 5	-	1 × 2	2 0 1	3	1	0	2	3	8	-5	3
3 奈良県	0 × 1	2 0 1	-	3 0 0	6	2	0	1	5	2	3	2
4 佐賀県	0 × 2	1 × 2	0 × 3	-	0	0	0	3	1	7	-6	4

Bブロック

チーム名	さいたま市	山梨県	兵庫県	静岡県	勝点	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
1 さいたま市	-	1 Δ 1	2 0 0	3 0 0	7	2	1	0	6	1	5	1
2 山梨県	1 Δ 1	-	0 × 3	4 0 0	4	1	1	1	5	4	1	3
3 兵庫県	0 × 2	3 0 0	-	2 0 0	6	2	0	1	5	2	3	2
4 静岡県	0 × 3	0 × 4	0 × 2	-	0	0	0	3	0	9	-9	4

Cブロック

チーム名	宮城県A	長野県	高知県	宮崎県	勝点	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
1 宮城県A	-	1 × 3	0 × 3	2 0 0	3	1	0	2	3	6	-3	3
2 長野県	3 0 1	-	0 Δ 0	1 0 0	7	2	1	0	4	1	3	2
3 高知県	3 0 0	0 Δ 0	-	4 0 0	7	2	1	0	7	0	7	1
4 宮崎県	0 × 2	0 × 1	0 × 4	-	0	0	0	3	0	7	-7	4

Dブロック

チーム名	北海道	仙台市A	静岡県	大阪府	勝点	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
1 北海道	-	5 0 0	0 × 1	0 × 2	3	1	0	2	5	3	2	3
2 仙台市A	0 × 5	-	0 × 2	0 × 7	0	0	0	3	0	14	-14	4
3 静岡県	1 0 0	2 0 0	-	3 0 1	9	3	0	0	6	1	5	1
4 大阪府	2 0 0	7 0 0	1 × 3	-	6	2	0	1	10	3	7	2

Ｅブロック

チーム名	札幌市	栃木県	浜松市	熊本県	勝点	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
1 札幌市	-	0×1	0×2	5○1	3	1	0	2	5	4	1	3
2 栃木県	1○0	-	0×3	3×1	6	2	0	1	4	4	0	2
3 浜松市	2○0	3○0	-	6○0	9	3	0	0	11	0	11	1
4 熊本県	1×5	1×3	0×6	-	0	0	0	3	2	14	-12	4

Ｌブロック

チーム名	千葉県	静岡市	和歌山県	山口県	勝点	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
1 千葉県	-	1○0	3○0	1○0	9	3	0	0	5	0	5	1
2 静岡市	0×1	-	3○1	2○1	6	2	0	1	5	3	2	2
3 和歌山県	0×3	1×3	-	1○0	3	1	0	2	2	6	-4	3
4 山口県	0×1	1×2	0×1	-	0	0	0	3	1	4	-3	4

Ｆブロック

チーム名	秋田県	新潟市	堺市	常盤木学園	勝点	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
1 秋田県	-	4○0	2○0	2×5	6	2	0	1	8	5	3	1
2 新潟市	0×4	-	0×1	0×9	0	0	0	3	0	14	-14	3
3 堺市	0×2	1○0	-	0×5	3	1	0	2	1	7	-6	2
4 常盤木学園	5○2	9○0	5○0	-	9	3	0	0	19	2	17	4

Ｍブロック

チーム名	東京都A	神戸市	広島市	熊本市	勝点	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
1 東京都A	-	0×4	5○0	2○0	6	2	0	1	7	4	3	2
2 神戸市	4○0	-	3○1	8○0	9	3	0	0	15	1	14	1
3 広島市	0×5	1×3	-	2○0	3	1	0	2	3	8	-5	3
4 熊本市	0×2	0×8	0×2	-	0	0	0	3	0	12	-12	4

Ｇブロック

チーム名	神奈川県	名古屋市	島根県	北九州市	勝点	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
1 神奈川県	-	1×4	0×1	3○0	3	1	0	2	4	5	-1	1
2 名古屋市	4○1	-	3○0	4○0	9	3	0	0	11	2	9	3
3 島根県	1○0	1×3	-	1△1	4	1	1	1	3	4	-1	2
4 北九州市	0×3	0×4	1△1	-	1	0	1	2	1	8	-7	4

Ｎブロック

チーム名	福島県	愛知県	香川県	鹿児島県	勝点	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
1 福島県	-	1×5	1○0	2○0	6	2	0	1	4	5	-1	2
2 愛知県	5○1	-	2○0	1○0	9	3	0	0	8	1	7	1
3 香川県	0×1	0×2	-	1×2	0	0	0	3	1	5	-4	4
4 鹿児島県	0×2	0×1	2○1	-	3	1	0	2	2	4	-2	3

Ｈブロック

チーム名	宮城県B	新潟県	鳥取県	長崎県	勝点	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
1 宮城県B	-	1○0	1○0	1○0	9	3	0	0	3	0	3	1
2 新潟県	0×1	-	0×1	1△1	1	0	1	2	1	3	-2	4
3 鳥取県	0×1	1○0	-	1○0	6	2	0	1	2	1	1	2
4 長崎県	0×1	1△1	0×1	-	1	0	1	2	1	3	-2	3

Ｏブロック

チーム名	富山県	三重県	愛媛県	福岡市	勝点	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
1 富山県	-	2○0	0×2	1△1	4	1	1	1	3	3	0	2
2 三重県	0×2	-	1×3	0×1	0	0	0	3	1	6	-5	4
3 愛媛県	2○0	3○1	-	1○0	9	3	0	0	6	1	5	1
4 福岡市	1△1	1○0	0×1	-	4	1	1	1	2	2	0	3

Ｉブロック

チーム名	仙台市B	東京都B	石川県	京都府	勝点	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
1 仙台市B	-	1×2	1×2	1×3	0	0	0	3	3	7	-4	4
2 東京都B	2○1	-	0△0	0×2	4	1	1	1	2	3	-1	2
3 石川県	2○1	0△0	-	0×5	4	1	1	1	2	6	-4	3
4 京都府	3○1	2○0	5○0	-	9	3	0	0	10	1	9	1

Ｐブロック

チーム名	青森県	千葉市	群馬県	岐阜県	勝点	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
1 青森県	-	0×1	2○1	1○0	6	2	0	1	3	2	1	2
2 千葉市	1○0	-	1○0	2○0	9	3	0	0	4	0	4	1
3 群馬県	1×2	0×1	-	0×2	0	0	0	3	1	5	-4	4
4 岐阜県	0×1	0×2	2○0	-	3	1	0	2	2	3	-1	3

Ｊブロック

チーム名	茨城県	福井県	大阪市	島県	勝点	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
1 茨城県	-	3○0	1×2	0△0	4	1	1	1	4	2	2	3
2 福井県	0×3	-	0×1	0×2	0	0	0	3	0	6	-6	4
3 大阪市	2○1	1○0	-	0×1	6	2	0	1	3	2	1	2
4 広島県	0△0	2○0	1○0	-	7	2	1	0	3	0	3	1

Ｋブロック

チーム名	茨城県	福井県	大阪市	島県	勝点	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
1 山形県	-	1△1	1△1	2○1	5	1	2	0	4	3	1	3
2 埼玉県	1△1	-	1△1	2○0	5	1	2	0	4	2	2	2
3 滋賀県	1△1	1△1	-	4○2	5	1	2	0	6	4	2	1
4 徳島県	1×2	0×2	2×4	-	0	0	0	3	3	8	-5	4



第13回全国シニア関東予選大会 (Over60) ・成績表

【A組】

会場:市原スポレクA(道路側)・B・C・D

※ 20分-10分-20分

	千葉県	茨城県	栃木県	埼玉県	勝点	勝	引分	負	得点	失点	得失差	順位
千葉県代表 AC千葉		②-B 3-0	④-C 4-1	⑦-B 0-1	6	2	0	1	7	2	5	2
茨城県代表 茨城シニア60	②-B 0-3		⑦-A 2-1	④-D 0-2	3	1	0	2	2	6	-4	3
栃木県代表 栃木大昭SC	④-C 1-4	⑦-A 1-2		②-C 1-5	0	0	0	3	3	11	-8	4
埼玉県代表 埼玉シニア60	⑦-B 1-0	④-D 2-0	②-C 5-1		9	3	0	0	8	1	7	1

【B組】

会場:市原スポレクA(道路側)・Bグラウンド

※ 20分-10分-20分

	東京都	群馬県	神奈川県	山梨県	勝点	勝	引分	負	得点	失点	得失差	順位
東京都代表 東京都選抜		②-A 1-0	④-A 2-0	⑦-D 0-0	7	2	1	0	3	0	3	1
群馬県代表 群馬FCシニア	②-A 0-1		⑦-C 0-0	④-B 3-1	4	1	1	1	3	2	1	2
神奈川県代表 茅ヶ崎FCえぼし	④-A 0-2	⑦-C 0-0		②-D 1-0	4	1	1	1	1	2	-1	3
山梨県代表 山梨50シニア	⑦-D 0-0	④-B 1-3	②-D 0-1		1	0	1	2	1	4	-3	4

※ 勝点 勝ち:3点 引き分け:1点 負け:0点

【優勝・3位・決定戦】

開始時間:12時30分 ※順位により表彰を行ないます

会場:

決勝:Aグラウンド 3位決定戦:Bグラウンド

決勝	A組1位	VS	B組1位	同点の時PK戦
Cグラウンド	埼玉		東京	2-1 埼玉優勝・2位 東京ロイヤル
3位決定戦	A組2位	VS	B組2位	同点の時PK戦
Bグラウンド	千葉		群馬	1-1:PK(7-6)千葉 3位:千葉 4位:群馬
5位決定戦	A組3位	VS	B組3位	同点の時同率順位
Aグラウンド	茨城		神奈川	2-0 5位:神奈川・6位:茨城
7位決定戦	A組4位	VS	B組4位	同点の時同率順位
Dグラウンド	栃木		山梨	1-1:栃木・山梨、同7位

※第3位まで、2013年全国シニアO-60大会に参加

2012年度 第6回関東シニアサッカー選手権大会 (50歳以上) 結果

(神栖市矢田部サッカー場)

1次ラウンド(11月24日(土)・25日(日)) A組

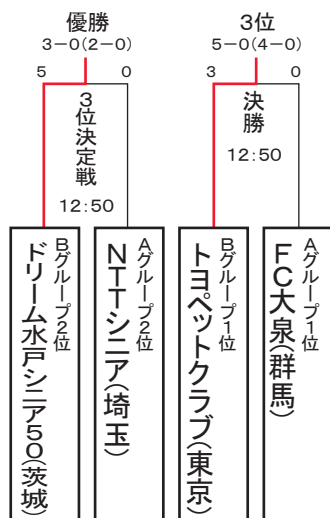
	A組	群馬	山梨	埼玉	栃木	勝	分	負	勝点	得点	失点	得失差	順位
A1	FC大泉50(群馬)		03-0	02-0	01-0	3	0	0	9	6	0	6	1
A2	山梨シニア50(山梨)	x0-3		x0-1	x0-3	0	0	3	0	0	7	-7	4
A3	NTTシニア(埼玉)	x0-2	01-0		02-0	2	0	1	6	3	2	1	2
A4	栃木平成シニアサッカークラブ(栃木)	x0-1	03-0	x0-2		1	0	2	3	3	3	0	3

11月24日 11:40 群馬3-0(1-0)山梨 11:40 埼玉2-0(1-0)栃木
 11月24日 14:00 群馬2-0(1-0)埼玉 14:00 山梨0-3(0-0)栃木
 11月25日 10:40 群馬2-0(2-0)栃木 10:40 山梨0-3(0-0)埼玉

1次ラウンド(11月24日(土)・25日(日)) B組

	A組	東京	茨城	千葉	神奈川	勝	分	負	勝点	得点	失点	得失差	順位
B1	トヨベツクラブ(東京)		02-0	05-0	02-0	3	0	0	9	9	0	9	1
B2	ドリーム水戸シニアFC(茨城)	x0-2		04-1	02-0	2	0	1	6	6	3	3	2
B3	袖ヶ浦シニア50(千葉)	x0-5	x1-4		x0-1	0	0	3	0	1	10	-9	4
B4	神奈川四十雀シニア(神奈川)	x0-2	x0-2	01-0		1	0	2	3	1	4	-3	3

11月24日 10:30 東京2-0(2-0)茨城 10:30 千葉0-1(0-0)神奈川
 11月24日 12:50 東京5-0(3-0)千葉 12:50 茨城2-0(1-0)神奈川
 11月25日 9:30 東京2-0(2-0)神奈川 9:30 茨城4-1(3-1)千葉



(参考)フレンドリー
 栃木1-0(1-0)神奈川 各組3位
 千葉2-1(0-1)山梨 各組4位

第6回関東シニアサッカー選手権大会(0-40)大会結果

【予選リーグ組合せ・日程及び試合結果】

A会場:熊谷スポーツ文化会館補助競技場 B会場:熊谷スポーツ文化公園東第一多目的広場

月日 (曜日)	会場	試合No.	開始時間	組合せ	備考
2012年 12/15 (土)	A	①	10:00	埼玉 所沢バッカーズ 1 [0-0 1-0] 0 茨城 ラッツオス古河FC	予選リーグ
		②	11:30	千葉 千葉四十雀サッカークラブ 0 [0-0 0-0] 0 群馬 大泉FCクワレンタ	予選リーグ
		③	13:00	茨城 ラッツオス古河FC 4 [3-0 1-0] 0 千葉 千葉四十雀サッカークラブ	予選リーグ
		④	14:30	埼玉 所沢バッカーズ 3 [2-0 1-0] 0 群馬 大泉FCクワレンタ	予選リーグ
	B	⑤	10:00	栃木 栃木教員マスターズ 1 [1-0 0-2] 2 神奈川 Bon De Bola藤沢	予選リーグ
		⑥	11:30	東京 四十雀クラブ東京 0 [0-1 0-0] 1 山梨 山梨マスターズ	予選リーグ
		⑦	13:00	神奈川 Bon De Bola藤沢 2 [1-0 1-0] 0 東京 四十雀クラブ東京	予選リーグ
		⑧	14:30	栃木 栃木教員マスターズ 2 [0-1 2-1] 2 山梨 山梨マスターズ	予選リーグ
2012年 12/16 (日)	A	⑨	10:00	山梨 山梨マスターズ 4 [2-1 2-1] 2 神奈川 Bon De Bola藤沢	予選リーグ
		⑩	11:30	栃木 栃木教員マスターズ 0 [0-0 0-0] 0 東京 四十雀クラブ東京	予選リーグ
	B	⑪	10:00	埼玉 所沢バッカーズ 4 [2-0 2-0] 0 千葉 千葉四十雀サッカークラブ	予選リーグ
		⑫	11:30	群馬 大泉FCクワレンタ 0 [0-0 0-1] 1 茨城 ラッツオス古河FC	予選リーグ

【予選リーグ成績表】

A組	茨城	群馬	千葉	埼玉	勝	引分	負	勝点	得点	失点	得失差	順位
茨城	○	○	●	●	2	0	1	6	5	1	4	②
群馬	●	○	○	●	0	1	2	1	0	4	-4	③
千葉	●	△	○	●	0	1	2	1	0	8	-8	④
埼玉	○	○	○	○	3	0	0	9	8	0	8	①

B組	神奈川	山梨	東京	栃木	勝	引分	負	勝点	得点	失点	得失差	順位
神奈川	○	●	○	○	2	0	1	6	6	5	1	②
山梨	○	○	○	△	2	1	0	7	7	4	3	①
東京	●	●	○	△	0	1	2	1	0	3	-3	④
栃木	●	△	△	○	0	2	1	2	3	4	-1	③

勝点:勝ち 3点 引分 1点 負 0点

【 】 2012年12月16日 会場:A会場 開始時間:13:30

埼玉 所沢バッカーズ 0 [0-1
0-1] 2 山梨 山梨マスターズ

【 】 2012年12月16日 会場:B会場 開始時間:13:30

茨城 ラッツオス古河FC 4 [2-0
2-1] 1 神奈川 Bon De Bola 藤沢

北那須キッズフェスティバル

県キッズ委員会
北那須キッズ委員長 大森 美幸

地区で開催を2回目にし、150人以上のキッズ年代の子供達が集まり、楽しいサッカーを通じて何かを学ぶ機会になったのではないかと思います。キッズ関連の行事ではありますが、地区の少年連盟の協力支援の下開催が行なえた事に感謝しています。少年の指導者が多くのキッズ年代への関心を今以上に持って頂ける様地区でのキッズへのアピールを今後も発展に繋げて行きたいと思えます。

また今回は「クーバーコーチング」那須校の斉藤様森合様にフェスティバルに出向いていただき、全てのプレーの基礎となるボールマスタリーなど短い時間の中ではありますが子供達へ大切な事を伝えてくれ、またフェスティバルの参加してくれた指導者の皆様にも大変ありがたい内容でした。クーバーのコーチの皆様有難うございました。



(クーバーコーチング指導の様子)



(クーバー終了後・雪の中の記念撮影)

フェスティバル当日は雪という急な悪天候になりながらも子供達は普段と違う楽しさを感じながらサッカーを楽しんでいた様子でした、雪の状況の中ボールを蹴る寒さに負けない気持ちも感じたのではないのでしょうか。

北那須地区年間を通してキッズアカデミーも開催しております。より多くのキッズ年代にサッカー

をやる環境を提供すると共に、キッズ年代に関わる指導者を増やせていけたら・・・と思っております。

キッズ年代の子ども達に 良い環境を提供するために ～高校生（ユースコーチ）との関わり～

キッズ委員会委員長 金井 理

今年度は、「とちぎキッズアカデミー」や「キッズフェスティバル」に、小山南高校、小山西高校、さくら清修高校、宇都宮高校、佐野東高校女子サッカー部、鹿沼東高校、白鷗足利高校の7校が協力してくれました。忙しい日程の中、時間を割いていただいた各校の指導者の皆様、また、この取り組みに賛同していただき選手を後押しして下さった各チームの指導者や保護者の皆様には大変感謝しております。

この取り組みに関わったすべての方々が、何かしらプラスになってくれたら幸いです。



(小山南高校：デモンストレーション)

さて、高校との連携について、キッズ委員会としては大きく3つの目的があります。

1つめは、子ども達が高校生と触れ合うことで今まで以上に「サッカーは楽しい」「もっとやりたい」「もっとうまくなりたい」という気持ちを持って次のステップへ進む。

2つめは、「地元の子どもは地元で育てる」という環境を、高校という地域の拠点となりうる場所をお借りして継続して行う。

3つめは、他チームの選手と触れ合いながら自主性や自立心を育てたり、単独のチームではできないようなトレーニングやミニゲームができる環境を提供したりする。

といったことを考えています。

上記の目的を達成するために、県キッズ委員会が地域の少年連盟と高校の橋渡しをして地域に根付かせようという思いで頑張っているところです。

今年は多くの高校生がユースコーチとして私たちと一緒に子ども達に関わってもらいました。(昨年の2校から、7校へと増えました。) 県内の高校生が、これだけキッズ年代の子ども達に関わるといふ取り組みは、全国にも誇れるものと自負して

おります。

高校の指導者の方々が、子ども達にとって、キッズ年代からの育成が大切であるということに関心を持ち、賛同していただいたことが今年度の取り組みにつながったと思います。

また、それぞれの高校の指導者から地域の保護者にも取り組みの意義を発信していただき、保護者にとっても良い機会となりました。

私たちは、ユースコーチに期待できることとして、

- ・一緒に遊べるお兄さんの存在である。
- ・しっかりした技術を見せられる。
- ・憧れの存在になれる。
- ・優しく指導できる。
- ・少人数での関わりや指導ができる。
- ・ゲームやトレーニングをコントロールできる。
- ・サッカー選手としての良い見本になれる。

などなど、我々大人の指導者にはない魅力を生かして子ども達と関わってほしいと思っています。また、あの高校に行けば、グラウンドがある、サッカー部がある、教えてくれる高校生（ユースコーチ）がいる・・・そんな身近な存在になってくれることを期待しています。



(さくら清修高校：トレーニングの場面)

今年参加した子ども達（9歳）が20年後、30年後に父親になり、子どもがサッカーを始めた時に今の取り組みが続いていたらどうでしょう。考えただけでも嬉しくなるような光景が目に見えます。

高校生にとっても、この取り組みをきっかけに将来指導者を目指したいと思ってくれたら幸いです。サッカーを通して、地元で選手が育ち、そこで育った子ども達が指導者として戻ってくるような還元サイクルができれば素晴らしいことだと思います。こんな将来に向けての第一歩を踏み出したのではないかと思います。

それには、我々の役目としてこの取り組みが一過性のものでなく、賛同してくれた監督さんが異動になっても、継続して行えることが望ましいと考えます。それには、高校生の皆さんが自分たちで考え運営できるようにならなくてはなりません。また、後輩たちに伝えていき、地域の子供達への指導がその高校サッカー部の伝統になって

いかなければいけないと思います。そこまで行くには時間がかかるかもしれませんが監督さんと考えを共有しながら、種をまいて育てていきたいと思っています。

高校生（ユースコーチ）には、すばらしい魅力があります。しかし、あくまでもコーチであり私たちのサポート役です。一緒に関わる大人の指導者が高校生に何をしてもらおうのか、どう関わってもらおうのか役割をはっきりさせなくてはなりません。そのために、子供たちに関わる前に講習会を行い準備をしてきました。どの高校でも、すべての生徒が真剣に話を聞き、指導実技にも参加してくれました。ここに関わってくれた栃木県の高校生は素晴らしいと改めて感じています。高校によっては、キッズリーダー講習会として行い「キッズリーダー」の修了書を渡しています。



(鹿沼東高校：ゲームの様子)

私たちは勿論ですが高校生には「笑顔で迎えよう」「どんどん子どもに声をかけて遊んでこよう」「たくさん褒めてあげよう」「いいプレーを見せてあげよう」ということを常に頭に入れて子どもたちを迎えるようにアドバイスをしています。

このように、しっかりと準備をして子供たちや保護者を迎えています。

実際に子どもたちを迎えると、緊張したりうまくいかなかったりと私たちにとっても高校生にとってもうまくいかないこともあったと思います。それでも、みんなで一生懸命に子ども達と関わることでどんどん変わっていくことができました。最後のあいさつでその日関わった子どもたちや保護者の笑顔を見ることで、やってよかったという満足感を得ることができたのではないのでしょうか。

終わった後の保護者へのアンケートでも大変嬉しい評価をいただいています。

- ・高校生が優しく指導してくれた。
- ・たくさん褒めてもらえた。
- ・いつもよりやる気が出ていた。
- ・一緒に遊んでくれて楽しそうだった。
- ・子供が毎回楽しみにしていた
- ・もっとやってほしかった。

などなど、私たちにとっても関わってくれた高校にとっても励みになるような声をたくさんいただきました。

今年度、この取り組みを通して関わった子ども達は延べ1200人に上ります。これだけの子ども達が、ここに参加したことでまたサッカーがしたくなった、サッカーって楽しい、もっとうまくなりたい・・・と夢や希望を持って次の年代に迎えられたら最高です。



(小山西高校：全員でハイタッチ)

しかしながら、課題もあります。この取り組みに、チームの指導者の参加少ないということです。子ども達が他のチームの子ども達と触れ合う姿をもっと見に来てほしいということを改めて思いました。それぞれのチームでこの年代の子ども達にどんな指導をしているのかは分かりませんが、アンケートを見る限り、チームに戻ると子ども達の笑顔が半減しているような気がしてなりません。キッズ年代の子ども達が増えている中、指導の大切さを改めて感じています。特に、ゴールデンエイジを見ている指導者の皆様には、キッズ年代からのつながりについて知ってほしいところです。

県協会としても、キッズリーダー講習会などを通して、積極的に指導者の皆様にこの年代の指導の大切さを発信するとともによりよい情報を提供していきたいと思ひます。

地域の指導者の皆さん、一度見学に来ませんか？そして、この年代の子ども達の指導のありかたについて一緒に考えませんか？

少年に関わる指導者の皆さんと「とちぎのサッカーをキッズから盛り上げよう」ということで共通の話題ができたら幸いです。

最後になりますが、今後この取り組みが県内全体に広まることや高校ばかりでなくいろいろな年代がキッズに関われるよう中学校、社会人、シニアにもかかわってもらえるようにしていけたらと考えています。

子供達のために

キッズ委員会副委員長
キッズチーフインストラクター
稲垣 浩充

2003年にJFAのキッズプロジェクトがスタートして今年で10年目を迎えます。

県キッズ委員会では、今まで様々なところで“キッズ年代の大切さ”や“キッズの活動の楽しさ”を発信してまいりました。

その中で今回は特に【キッズリーダー養成講習会】についてお伝えしたいと思います。

キッズリーダー養成講習会は『U-6』・『U-8』・『U-10』という3つのカテゴリーに分かれています。キッズ委員会ではその中で“サッカーにおけるキッズ年代”という観点から主に『U-8』を中心に講習会を開催しております。

2011年度の県内でのキッズリーダー養成講習会は、全部で14コース、364名というたくさんの方に受講して頂き、同時にキッズのことを伝えることができました。

この数字はコース・人数ともに2011年度日本一の数でした。本当にありがとうございました。

キッズリーダー養成講習会を受講される方を分けると4つのグループになります。

それは

- ①指導者
- ②保護者（お父さんコーチ・お母さんコーチ）
- ③保育士等を目指す人
- ④高校生（県教会のキッズの活動に関わってくれるユースコーチ）

です。

①指導者へのアプローチ

現在栃木県サッカー協会では、指導者養成講習会のカリキュラムの中にキッズリーダー養成講習会も組み入れられています。

今ではこの取り組みも全国的に広がっておりますが、スタート当初は全国をリードする素晴らしい斬新な取り組みでした。

我々指導者はサッカーを通して常に子供達に接しているため、我々の考え方や接し方、そしてサッカーへの導き方、その全てが子供達の将来に大きく影響を与えてしまいます。

特にキッズ年代への（指導の）認識が重要なことは言うまでもありません。

例えば、各地区ごとに開催されているキッズアカデミー（個人参加）や、フェスティバルへの参加も、チームによっては指導者の判断で子供達にその情報すら伝わっていないということを耳にします。

アカデミーやフェスティバルというキッズの活動は“ただ遊んでいるだけ”と思われている方も多いと聞きます。

もちろん、ベースは“楽しさ”にあるため表面的にそう見えるのは当たり前のことですが、しかし、それは我々の提供したい一番のポイントでもあるのです。

楽しく遊んでいるように見えるからサッカーを学



(キッズリーダー養成講習会)

んでいないということはありません。

サッカーの刺激を受けていないということはありません。

大切なことは、我々指導者がオープンマインドでキッズに関する情報もたくさん取り入れて、子供達に少しでもいいサッカーを提供し続けていければ、その未来は更に楽しみになるということです。

そのためにキッズ委員会ではキッズリーダー講習会を通して『キッズ年代の子供像』や、『子供達への関わり方』などをお伝えするとともに、『子供達を育てていくためにはどうしたらいいのか』という問題を一緒に考える時間を共有したいと思っています。

②保護者へのアプローチ

保護者の方々へは一般の講習会で受講して頂いておりますが、その回数は決して多いとは言えません。

本来ならば県で数回、また各地区ごとでも年に一回は開催していければもっと多くの方にキッズのことを伝えていけるのですが、日程の問題やこちら側の状況もあり、なかなか思うように開催できないのが現状です。

しかし、子供に良い環境を提供するには“我々大人から”という思いで、2013年度は一回でも多くの講習会の場を作っていきたいと思っています。

講習会の内容も“指導をする”という観点より、“支え、見守る”という立場の重要性に触れることが多くなります。

保護者の方々にキッズのことを理解して頂けることは、一番強い味方を得られることであり、それはそのまま本当の意味で子供達を支え、守ることになります。

当たり前のことですが、子供達の人間形成の根幹に最も触れ合い、影響を与えることができるのは保護者の皆様です。

と同時に、子供達が安らぎを得られる場所も皆様です。

子供達の時間のほとんどはサッカー以外の時間です。ですから、その貴重なサッカーの時間を更に有意義な時間にするためにも、保護者の方々に

もキッズのことに興味を持って頂きたいと思っています。

お子様がキッズ年代でなくても是非キッズの活動を観に来て下さい。一緒にキッズの活動を楽しんで下さい。

そして、一人でも多くの方々から子供達への応援の声を頂き、一緒に子供達の成長に、そして未来に触れていければ素晴らしいことだと思います。

そのための足がかりになれるような講習会にしたいと思っています。



(子どもの立場に立って実技講習)

③学校の先生や保育士を目指す人へのアプローチ

一般の講習会で受講される方の中には学校の先生や保育士を目指す方もいらっしゃいます。もちろん、現役の先生、保育士さんもいらっしゃいます。

普段から子供達と接しているプロの方々にも今さら“キッズとは・・・”というのは大変に恐縮なことですが、子供達を知っているからこそ『サッカーにおけるキッズ年代の子供達への関わり』に活かして頂きたいと思い、お話をさせて頂いております。

もちろん、先生や保育士さんを目指している方にとっても、講習会に参加することによって“子供達を見る視野”を広げてもらえたり、現場の先生からの貴重なお話を聞くことによって今後活かしていけることがたくさんあるはずですよ。

ただ、現在キッズ委員会では、学校やサークル等、『先生や保育士を目指す方』を対象とした講習会は開催できておりません。

学校とのつながりや授業のカリキュラムとの問題、その他様々な問題はありますが、未来の宝物である子供達に大きな影響を与える方々にキッズのことを伝えられるよう、2013年度はそれらの問題をクリアして是非講習会を開催したいと思っています。

④高校生（ユースコーチ）

栃木県では昨年度まで高校生とキッズとの関わりは、小山南高校・鹿沼東高校の2校でしたが、

今年度より、さくら清修高校・小山西高校・宇都宮高校・白鷗足利高校の4校の協力を頂き、計6校となり、子供達にとって更にいい環境の中でサッカーができるようになりました。

その他、大内中学校・佐野東高校女子サッカー部・宇都宮中央女子高校・宇都宮短期大学付属高校女子サッカー部などもフェスティバルなどではご協力を頂いております。

その中で特にお伝えしたいのは、アカデミーで関わって頂いた、小山南高校・鹿沼東高校・さくら清修高校・小山西高校・宇都宮高校・白鷗足利高校・佐野東高校女子サッカー部の7校では子供達との交流の前にキッズリーダー講習会を開催し、きちんとキッズのことを伝え、理解して取り組んで頂けたことです。



(高校生への講習会)

講習会では普段とは違った緊張感がありましたが、その反面、監督が見ているということもあり、大人とはまた違う真剣（必死）な姿も見られました。

講義では静かだった高校生も、実技のアイスブレイクでは我々ともコミュニケーションを取りながら、お互いに声を掛け合い、少しずつ声が出始め、楽しく身体を動かすことができました。

実技の後半では、実際に小学生に施すトレーニングを行い、アカデミーに向けていいシュミレーションができるとともに、本当に有意義な時間を過ごすことができました。

今回の取り組みに関わってくれた高校生（キッズリーダー取得者）は全部で260名にもおよび、その数は紛れもなく日本一の数であり、日本一のユースコーチ達です。

この取り組みが実現できたのは、『サッカーを通して地域貢献をしていきたい』という各校の監督・先生方の強い想いです。

キッズのことをきちんと理解して頂き、我々の『キッズから栃木のサッカーを変えていこう』、そして『地域の子どもは地域で育てよう』という想いをも汲んで頂いたおかげです。

この場をお借りしまして重ねて御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

これから・・・

『子供の体力低下と幼児期の運動効果』という講習会でこんな話を聞きました。

幼児の活動量の比較で、昭和60年頃は一日あたりの歩数が27,000歩だったのに対して、現在は半分以下の13,000歩にまで下がっているそうです。

また、ボールを使う遊びをたくさん経験する子供は『空間認識能力』が高まり、脳から出る『身体を動かす情報伝達能力』がスムーズになり、運動能力も上がるそうです。

運動能力の高い子供とは・・・

- ①バランスの良い肉體
- ②優れた機能（一般的体力）
- ③病気にかかりにくい
- ④前向きな心
- ⑤精神的ストレスに強い

子供のことで、そういう子供達を育てるには小さいときに様々な身体の使い方を経験させ、たくさん身体を動かす（遊ばせる）ことだそうです。

また、小さい頃から専門種目の練習だけをさせると総合的な運動能力の高い子供にはなりにくいとも言われています。

ですからキッズの講習会では、そのような想いで子供達に接して頂きたいという観点から、サッカーだけに留まらず、遊んだり、コミュニケーションを取ったりすることにも重点を置き『楽しめる講習会』になっています。

もともと、我々もキッズリーダー講習会をもっと楽しく、もっと充実したものにし、“一回取ったから・・・”ではなく、“また行きたくなる講習会”にできるよう、常に新しいものを取り入れ学んでいきます。

栃木のキッズは少しずつですが、間違いなく確実に進んでいます。先ほどの高校生との取り組みはもちろんですが、栃木の素晴らしさを日本中に発信していきたいと思っています。



(いろいろな動きを取り入れて・・・)

キッズの活動は、アカデミー・巡回指導・クリニック・様々な内容のフェスティバル・・・と、多岐にわたっています。

4チームが10年連続参戦

7チームから始まった栃木県フットサルリーグ。現在、関東リーグ2部リーグに参戦している三栄不動産FC宇都宮（宇河）のほか、県リーグ1部のInfantili/峰FC（宇河）、YUZUHA（塩谷）、同2部のブラジニア（芳賀）の3チームが10年連続参戦を果たしました。

この10年でリーグは1部リーグ制から2部リーグ制に変わり、競技日数も延べ3日間から延べ30日間へと増加しました。この3チームは、これらのリーグの発展とともに歩んできたチームともいえます。



▲ Infantil/峰FC



▲ YUZUHA



▲ ブラジニア

だからこそ、子供達に喜んでもらうためにはたくさんの方のアイデアが必要なのです。

サッカーだけに留まらず環境も変わります。子供達自身も毎年代わり、成長します。

だからこそ、子供達を支え・守るためにはたくさんの方の力が必要なのです。

我々大人が【子供達の成長】を第一に考え、それには何が大切なのかをみんなで考えていった分だけ子供達が成長できます。

我々大人が【子供達の将来】に大きな影響を与える力を持っているのです。

子供達を成長させるために、我々大人が成長しましょう。そのために学びましょう。

そして、子供達のためにみんなで一緒に頑張りましょう。

自分自身も『キッズから栃木のサッカーを変えていこう』の実現に向けて更に全力で取り組んでいきます。

(文責 稲垣 浩充)

フットサルリーグ10周年に思う

栃木県フットサル連盟理事長 桜井誠

本年度、男子社会人の栃木県フットサルリーグは創設10周年を迎えました。これもひとえに県協会関係者、参加チームなどのご高配、ご協力があったからこそと、あらためて御礼を申し上げます。

栃木県フットサルリーグは2003年初夏、県社会人サッカー連盟の一事業として産声を上げました。第1回リーグは7チームが延べ3日間、宇都宮市スケートセンターで熱戦を繰り広げました。その後、06年にリーグを専門的に所管運営する「栃木県フットサル連盟」が設立され、現在に至ります。

おかげさまで、この10年間でチーム数は男女27チームにまで増え、首都圏の都県連盟にこそ及びませんが、他県と比較しても恥ずかしくないチーム登録数となってきました。

しかし、ここ数年は登録チーム数の伸びが鈍くなり、競技団体側としてはさらなる努力が求められています。また、主戦場となる県内体育施設も、公式戦利用に多大なるご理解をいただいている自治体がある一方で、使用許可範囲を年々せばめている自治体もあります。自治体側が懸念する「フットサルは体育館を壊す」というマイナスイメージの払拭にも、引き続き努力していかねばなりません。

間もなく11年目のシーズンが始まりますが、今後は強化、普及に加え「競技環境の維持」を意識した連盟運営もしていく必要があると考えています。引き続き、本県フットサル界の発展のため、ご協力、よろしくお願ひします。

モランゴ栃木、関東昇格

今季、栃木県リーグ1部リーグ4連覇を果たしたMORANGO栃木（栃木市）が2月16、17の両日、神奈川県藤沢市の神奈川県立スポーツセンターで行われた「第15回関東リーグ参入戦」でブロック優勝を飾り、来季の関東リーグ2部昇格を決めました。県勢としては、初めての参入戦突破で、指揮を執った山口雄二監督に戦いを振り返ってもらいました。

強豪チームとの対戦が続くため、守備で集中を失わないことを念頭に置いて戦いました。初戦で強豪・FCまんぼーに勝てたことで、勢いに乗れたことが大きかったです。

過去3年間は参入戦で跳ね返され、悔しい思いが続いていました。今年は体力強化からチームを立て直し、ベストな状態で参入戦に臨めたことが大きかったです。

来季、関東リーグに昇格しますが、チームの特長でもある「パスで相手守備を崩し、最後は1対1で勝負する」というスタイルをベースにまずは「関東5勝」を目指し戦いたいです。



▲ MORANGO栃木

本県出身選手、世界で活躍

栃木県女子サッカー連盟 井上知佐子

2012年シーズンは、栃木県出身の選手たちが世界を相手に活躍した1年でした。ロンドン五輪で安藤梢選手（フランクフルト）、鮫島彩選手（ベガルタ仙台レディース）が活躍。日本開催となった20歳以下女子ワールドカップでは手塚貴子コーチと坂本理保選手（浦和レッズレディース）が出場しました。17歳以下日本代表の井上綾香選手（河内SCジュベニール）がアゼルバイジャンで行われた17歳以下女子ワールドカップに出場しています。

栃木県で育った選手たちが世界を相手に活躍する姿は、県内で頑張っている女子選手たちにとっても大きな目標となります。また、彼女たちの後に続く選手が1人でも多く、この栃木県から生まれることを期待し

ています。

今後とも栃木県サッカー協会内の各連盟と緊密な連絡を取りながら、栃木の女子サッカーを盛り上げていきたいと思っています。引き続きご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

手塚氏が浦和レッズL監督就任

宇都宮市出身で、2011年にアジア最優秀女子コーチにも選ばれた手塚貴子氏が、今季からなでしこリーグの強豪・浦和レッズレディースの監督として、新たなキャリアをスタートさせることになりました。

かつては本県の栃木SCレディースも率いた手塚氏。12年には20歳以下日本女子代表コーチとして日本開催となった年代別ワールドカップにも出場しました。なでしこリーグチームの指揮官として新シーズンに向けての意気込みをうかがいました。

昨年11月に浦和の方から監督の話してもらいました。日本サッカー協会のスタッフとしても、女子サッカー分野の土台固めや改善でやるべきことがあったので、正直、悩みました。しかし、トップリーグの監督ができるということにありがたみを感じ引き受けることにしました。

1月16日に選手たちと顔合わせをして、その後、選手の考え方などを理解するため面談を行いました。練習は19日から始めました。

指導者として自分の「カラー」というものは意識したことはありません。選手の色を出し、選手の特長が生きるとなチームにしていきたいですね。トラップやパスの正確性など基本的なことを大切にしながらチームづくりを進めていきたいと思っています。

チームには、宇都宮市出身で20歳以下日本女子代表だった坂本理保選手ら多くの若い選手が主力として所属しています。一戦一戦大切に戦って、少しでも上位に入れるよう頑張りたいです。7月6日には宇都宮市で日テレベレーザとの「なでしこリーグカップ」を戦いますが、ベレーザは私が現役時代に所属したチームだけに負けたくないですね。



井上選手、ベガルタ仙台へ

河内SCジュベニールに所属し、17歳以下日本女子代表として年代別ワールドカップなどに出場した井上彩香選手（さくら清修高）が今春、高校を卒業、なでしこリーグのベガルタ仙台レディースに入団することになりました。

入団と同時に19歳以下日本女子代表候補にも選出された井上選手に、なでしこリーガーとしての抱負をうかがいました。

17歳以下のワールドカップを経験して、もっと上でやりたいと思っていました。高校卒業にあたって、仙台など数チームの練習会に参加し、チームとして雰囲気よかった仙台に入団を決めました。

1月29日から仙台に入りチームに合流し、千葉での合宿などにも参加しました。なでしこリーグはさすがにスピードも当たりも格段に違います。1日も早くこのレベルについて行けるよう頑張っているところです。

チームの合宿では、本来のサイドハーフのほかに、サイドバックなどでもプレーしました。自分としてはサイドハーフでレギュラーになれるよう頑張りたいと思っています。攻撃力と同時に、これまであまり意識していなかった守備力も高めていく必要性を感じています。



また、河内SCジュベニールの先輩でもある仙台の鮫島彩さんにも、チーム内でいろいろお世話になっています。鮫島さんがチームにいるというのも、仙台入団を決めた理由の一つです。

まず1年目はアウェイの試合の遠征メンバーに入れるよう頑張って、そこから1日も早く試合に出られるようになりたいです。将来、なでしこジャパンに入れるよう仙台で頑張ります。

『もうひとつのロンドンオリンピック』

サッカー競技審判 相楽 亨

ジェームスボンドとエリザベス女王がヘリコプターで接近してくる映像が会場に流れ、我々観客が固唾を飲んで見守っている瞬間にそれは起きた。なんとエリザベス女王がヘリコプターから飛び降りて、パラシュートで会場に舞い降りたのだ。



もちろんこれは演出であり、エリザベス女王に扮した役者によるパフォーマンスであるが、それでも我々は度肝を抜かれた。

我々サッカー審判団は、他の競技の審判団と共にロンドンオリンピックの開幕式に招かれていた。ベッカム氏がテムズ川を高速ボートでさっそうと運ぶ聖火、イギリスの歴史を振り返るようなステージ、更には最後に204本の聖火が一斉に立ち上がることで一つの大きな聖火台を完成させる演出など、インテリジェンスを感じさせる開会式に酔いしれた。

サッカーの審判団は、残念ながら選手村ではなくロンドン中心部「バッキンガム宮殿」から徒歩5分のホテルに拠点を構えた。選手とのふれあいのチャンスは失ったが、歩いて観光できるチャンスは獲得した。



英国の伝統と歴史を感じさせる重厚な造りの建物が我々観光客を圧倒する。言い換えればやや華やかさには欠ける街であるとも言えるが、我々が滞在した期間は、街はロンドンオリンピックと言う華に彩られ、お祭り騒ぎの人々で溢れかえり、ただでさえ渋滞するロンドン市内が更にひどい交通マヒ状態に陥っている、と言った感じであった。

最初の試合はマンチェスターで行われるグループリーグ第2戦、ブラジルvsベラルーシだった。



今年香川選手が入団したことで、一気にメジャー級の知名度となった「オールドトラフ・オールドスタジアム」。素晴らしいスタジアムであるという評判は疑っていなかったが、実際に訪れて見ると、その圧倒的な雰囲気の人々が魅了されているのがうなずける。

似たような雰囲気のスタジアムを日本のスタジアムで表現するのは困難である。というより、私がこれまで訪れた世界中のスタジアムを思い返しても、似ているスタジアムが出てこない。

第一に、観客席が圧倒的に近い。ベンチを置くスペースも、選手がアップするスペースも省略して見やすさを優先している。ベンチは観客席に飲み込まれているし、アップする選手は私（副審1）のすぐ後ろで動き回っている。不十分なスペースだが見やすさ優先だ。分なスペースだが見やすさ優先だ。

第二に、ピッチが2mは盛り上がっている。土を継ぎ足した歴史であろうか、もはや最前列の観客は座ってはいは選手のスパイクしか見えない。

最終的に私が最も近いと感じた競技場は「両国国技館」である。砂かぶり席では選手（力士）を見上げるように見るほかないのである。

フットボール母国の「マンチェスター国技館」と日本の国技、相撲の聖地「両国国技館」。共通点は多いと感じた。



ブラジルは先制されたものの、ネイマール選手他、若きカナリア軍団の芸術的なフットボールショーで筋書き通りの逆転勝ちを収めた。ほとんど審判が必要とされないような美しい試合だった。

我々の二試合目は、英国を形成する1つの国であるウェールズのカーディフと言う街で行われるグループリーグ第三戦「開催国、英国 v s ウルグアイ」。

英国は勝たなければ予選敗退という窮地に追い



込まれていた。しかも相手はスアレス率いる古豪ウルグアイ。難しい試合になりそうなのは火を見るより明らかである。

予想は残念ながら的中し、紳士的に振舞いたいが何が何でも勝たなければならない焦りにかられる英国に対し、「紳士的」とはかけ離れた泥臭いサッカーをしかけるウルグアイとのガチンコ勝負となり、非常に気を使う試合となった。西村氏と私で組んではや六年になるが、最も難しい試合の一つに数えられる。

結果は英国が1-0で逃げ切り、負けた矛先も審判に来るようなことが無い試合となったので胸をなでおろした。

その後は、みなさんもお存じのとおり日本チームの快進撃により、我々日本審判団は一足先に帰国となった。ただ帰国が言い渡されたのが午後九時で、翌朝六時にはホテルを出なければならなかった為、買い忘れたお土産に後ろ髪を引かれながらヒースロー空港を後にした。

こうして我々審判団日本代表の「もうひとつのオリンピック」は幕を閉じた。



栃木県フットボールカンファレンス2013 開催

2013年2月2日（土）栃木市文化会館にて栃木フットボールカンファレンスが開催されました。カンファレンスでは、JFAインストラクターである大野真氏を招聘し、「JAPAN'S WAYの実現に向けて～日本のユース年代の育成について～」と題し、講演をいただきました。

講演の中で、大野氏は繰り返し「ゲームはよりテクニカルにスピーディーにタフに！」と口にしていました。世界の現代サッカーの傾向をみると、FIFA U-17 WORLD CUP MEXICO 2011、2010 FIFA WORLD CUP SOUTH AFRICA、FIFA U-20 WORLD CUP COLOMBIA 2011、どの大会においてもゲームはよりテクニカルにスピーディーにタフになってきているといえます。

テクニカル・・・個のテクニックの質と精度がより高くなっている

スピーディー・・・攻撃と守備が一体化 切り替えの早さ パススピード 判断の早さ 加速化

タフ・・・運動量 ハードワークへの取り組み

以上の要素がこれからは必要だと話していました。これらの要素をすべてもっている優れた個が重なりあって、優れたチームができるといえます。

また、日本の目指すサッカーとして、「全員攻撃、全員守備で、攻守にわたってアグレッシブにハードワークする」と提言し、ゴールを獲るために攻め、ボールを奪うために守る。テクニックの質と関わりの量と質の向上を求めています。

大野氏の講演の他に、「栃木県のサッカー躍進のために必要なこと」というテーマでのパネルディスカッションや、JFAフィジカルプロジェクトメンバーであり、フットサル日本代表フィジカルコーチも勤める村岡誠氏による講話、栃木SCアカデミーダイレクターの山口隆文氏による講話も行われました。栃木SCアカデミーダイレクター山口氏の講話の中でも、度々「テクニック」が大切だと話されていました。テクニックがあればボールを失わない。失わなければポゼッションが高まる。ポゼッションが高まれば自分が関わるシーンが増える。自分が関われるからサッカーが楽しくなる。だから、テクニックはサッカーを楽しむ上で必要不可欠だと、話していました。

大野氏や山口氏の話から、指導者は選手たちが若いうちにさまざまなテクニックを身につけさせるべきだ。そのテクニックがベースとなり、その後の育成の可能性を広げていくことにつながるのだ。そう感じさせてくれるお話しばかりでした。

最後に、今回のカンファレンスでは参加者数が予想していたよりも非常に多く、会場に収まらず立ち見での参加になってしまった方もいました。しかし、このことは栃木県内の指導者の意識の高さを示しているため、技術委員会として非常に嬉しい結果でした。今後も栃木県のサッカーの発展に向けて、選手、指導者、共に能力向上できるような場を用意していきたいです。



テーマ：サッカーはサッカーをすることでうまくなる！！

開演 9:25

9:25 オープニング

9:30 技術委員長挨拶 (社) 栃木県サッカー協会

技術委員長 川上栄二

9:45 JAPAN'S WAYの実現に向けて ～日本のユース年代の育成について～

JFAインストラクター 大野真

<休憩>

11:15 パネルディスカッション「栃木県のサッカー躍進のために必要なこと」

<休憩(昼食)>

13:15 講話「ユース時代の動きづくりとコンディショニング」

JAFフィジカルプロジェクトメンバー フットサル日本代表フィジカルコーチ村岡誠

14:15 講話「栃木県のユース年代の育成に必要なこと」

栃木SCアカデミーダイレクター 山口隆文

15:10 質疑応答

15:30 クロージング

15:40 事務連絡 解散

参加者の皆様にアンケートの協力をいただきました。

右図の通り集計結果を掲載いたします。

なお、このアンケート集計結果に載らない部分で、様々な要望もいただきました。時間と会場スペースに限りがあるため、皆様全ての要望に応えられず誠に申し訳ございません。

今後とも御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

第10回フットボールカンファレンス

全体 (185人)								
年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	計
	0	15	49	76	38	2	0	180

		よい	変更	計
1. 日時・日程について	(1)実施日	171	11	182
	(2)時間帯	171	9	180
2. 場所について	(1)会場	105	70	175
	(2)施設・設備	98	80	178

3. 内容について	評価	1	2	3	4	5	計
	(1)ユース育成	0	3	27	57	93	180
	(2)パネルディスカッション	4	21	68	56	31	180
	(3)動きづくりとコンディショニング	10	24	59	64	32	189
	(4)栃木サッカーに必要な事	0	3	18	37	116	174

	よい	変更	どちらでも	計
4. 参加費について	116	56	0	172
5. 宿泊開催(懇親会)について	27	114	12	153

1. 日時・日程要望	・ 2月下旬(上旬は大会が多い) ・ 日曜日、夕方、半日、午後から、遠方の方もいるので10時から、16時まで、年数回
2. 場所要望	・ 宇都宮、教育センター、大ホール ・ 座席が狭い、席が少ない、机が欲しい、大きい施設希望、駐車場狭い
3. 内容要望	特になし
4. 参加費要望	・ 3000円、減額希望、他県より1000円高い、無料
5. 宿泊開催(懇親会付)要望	・ 日程的、金銭的に厳しい、参加しにくくなる、自チームがある、意味はない、JFAカンファレンスでいい、内容による、やるなら日帰りでもOKにしてほしい、上級者に向けてならOK
6. 自由意見	・ 評価が1と5のどちらが良いのか分からない(50代) ・ 大変参考になった。ありがとうございました。(50代) ・ 日本代表、世界レベルの話があったが、まずはJを目指す環境、魅力を栃Sがつくるべきと感じた(40代) ・ 育成青年の重要性をより理解できた。今後の指導に生かしていきたい(20代) ・ 350人の昼食をとる店舗が少ないので、弁当をお願いしたい(50代)

中央トレセンU-12

2013年1月12日（土）～13日（日）に栃木県総合運動公園サッカー場において、今年度の中央トレセンU-12が行われました。中央トレセンでは、インストラクターとして池上正氏（元ジェフユナイテッド市原・千葉/NPO法人I.K.O市原アカデミー理事長）を招いて、池上氏によるトレーニングやレクチャー等を実施しました。

対象は栃木県トレセンU-12の選手で、はじめに栃木県トレセンスタッフが指導実践を行い、その後池上氏からのアドバイスや実際の指導実践が行われるという流れで進みました。

池上氏による指導としては、2人1組～3人1組のボールの運び方やパスの意味を考えさせる練習。3対1のボールポゼッション（パスをしたら必ずポジションチェンジ、できるだけワンタッチなどルールを変えながら実践）。

4人1組でのお互いを意識したパターン練習（シュート練習）。

4対4のゲーム（ポジションチェンジなし、マンツーマンDFにすることで、バラバラで動いていた子供たちが、組織で動くようになりサッカーの質が高まった。

トレセン活動を終えて、池上氏は感想の中で、「休憩時間にフリーキックの練習をする日本の子供たちを見ていると、指導者が本当の意味でサッカーを教えていないのではないかと感じる。海外では自然とゲームが始まっている。同じことをやっていたら安心する日本人。今日、練習の意味を本当に理解していた子供はほとんどいなかった気がする。答えは一つでないはずのトレーニングで全員が同じことをやっていた。教えすぎることによって本質を見失っている可能性がある。」と、日本のサッカーに対する不安感を話していた。

と、同時に「日本のサッカーがこれからもっとよくなるよう日々勉強していきたい。」とも話した。

1月12日	8:30	現地集合	
	9:00	トレーニング(ゲーム)*Cコート	・ゲーム分析&プランニング
	11:00	終了	
	11:30	昼食	
	13:00	スタッフによる指導実践[O印が主担当]	・指導実践見学
		Tr.1: チャレンジ&カバー【O田村 佳則・小林 一幸】	・実技
		* Tr.1に関する池上氏アドバイス&指導実践	
		Tr.2: ビルドアップ【O未定・吉田 正道】	・ディスカッション
		* Tr.2に関する池上氏アドバイス&指導実践	
	15:00	インストラクター池上氏による反省会	・終了
	16:00	トレーニング終了	
	1月13日	17:00	池上氏によるレクチャー
18:30		夕食	
21:00		消灯	
6:00		起床・朝の散歩	
7:00		朝食	
8:30		池上氏による指導	・池上氏の指導見学
11:30		終了	・ディスカッション(振り返り)
12:00	閉会式・解散		



池上氏によるレクチャー風景



池上氏によるトレーニング風景

平成24年度（公社）栃木県サッカー協会賛助会員ご芳名（敬称略）

奥澤 直人
 FC西那須21槻沢
 宇都宮北高サッカー部 OB会
 今市第三カルナヴァル
 安達 賢二
 加藤 一男
 星野 みい子
 佐野日本大学高等学校
 サッカー部保護者会
 石崎 洋子

円印刷株式会社
 O M F C
 宇都宮大学サッカー部OB会 会長 手塚 操
 FC西那須21アストロ 保護者会
 矢板中央高等学校 サッカー部
 真岡SCアーギアOB会
 宇都宮東高サッカー部保護者会
 東那須野FCフェニックス

（平成25年3月1日現在）

賛助会員募集のお願い

本協会は地域スポーツ文化の向上と県民の健康増進を目標に、活気にあふれ、夢の持てる栃木県を作るため、サッカーを通して少しでも貢献したいと願い活動しております。

つきましては、年額1万円以上（1口1万円）の賛助をしてくださる個人・団体あるいは法人を募集しております。

賛助会員のいろいろな特典

- 会員証の発行 ● 広告掲載 ● 広報誌送付
- カレンダーの割引 ● 県サッカー協会主催大会の無料観戦
- 天皇杯（本県主催）の入場券割引 ● 日本代表グッズ等のプレゼント抽選
- ヤマトヤ・あおきスポーツ・奈良スポーツでミズノサッカー製品20%OFF



お問合せは公益社団法人栃木県サッカー協会事務局(TEL:028-684-6900)まで

オフィシャルサプライヤー
ミズノ株式会社

■ 発行	公益社団法人 栃木県サッカー協会
■ 編集	公益社団法人 栃木県サッカー協会 記録広報委員会
■ 発行責任者	石崎忠利、村上富士夫
■ 印刷所	円印刷株式会社